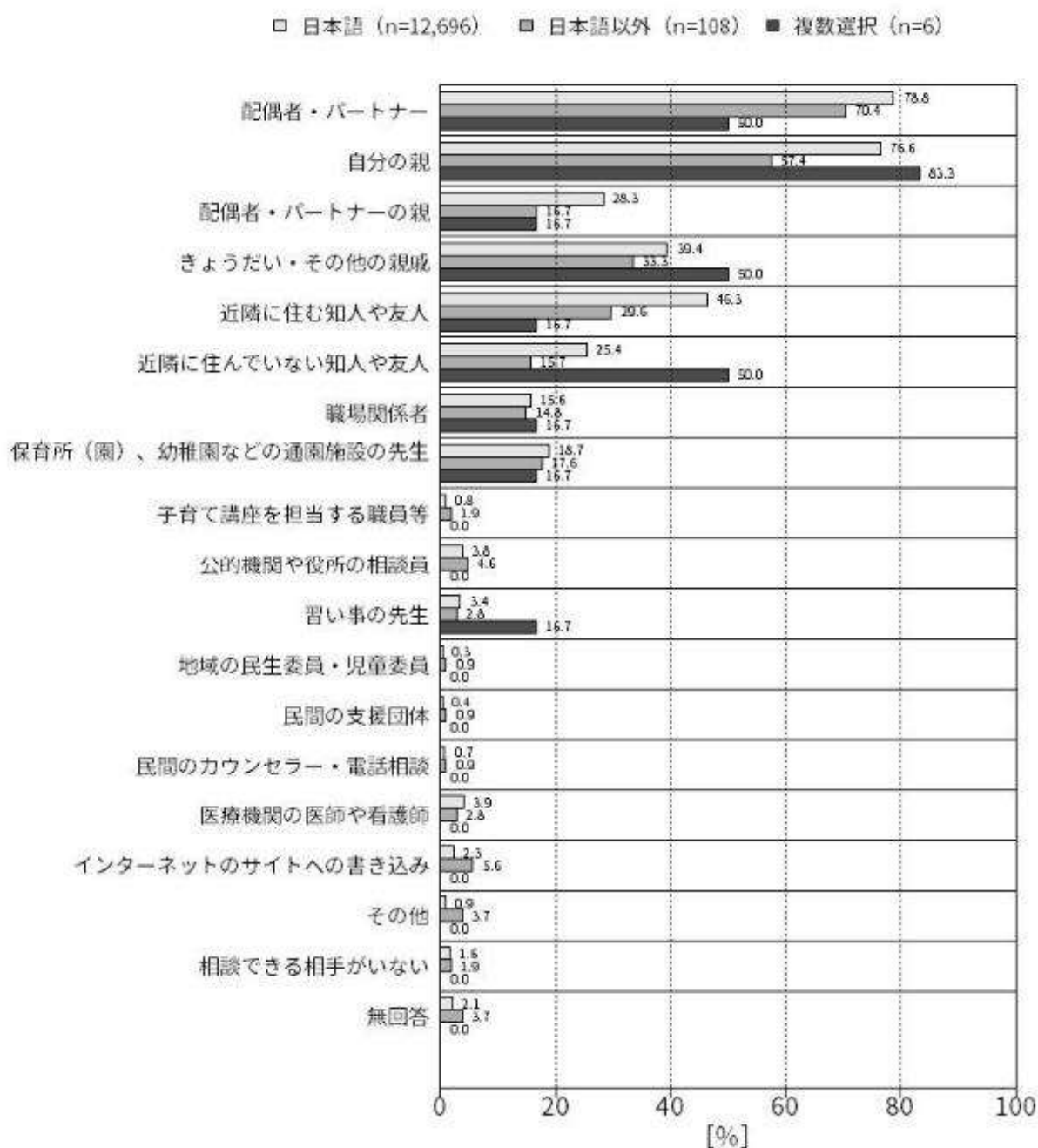


母国語別に見た、相談相手（問 2×問 35）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

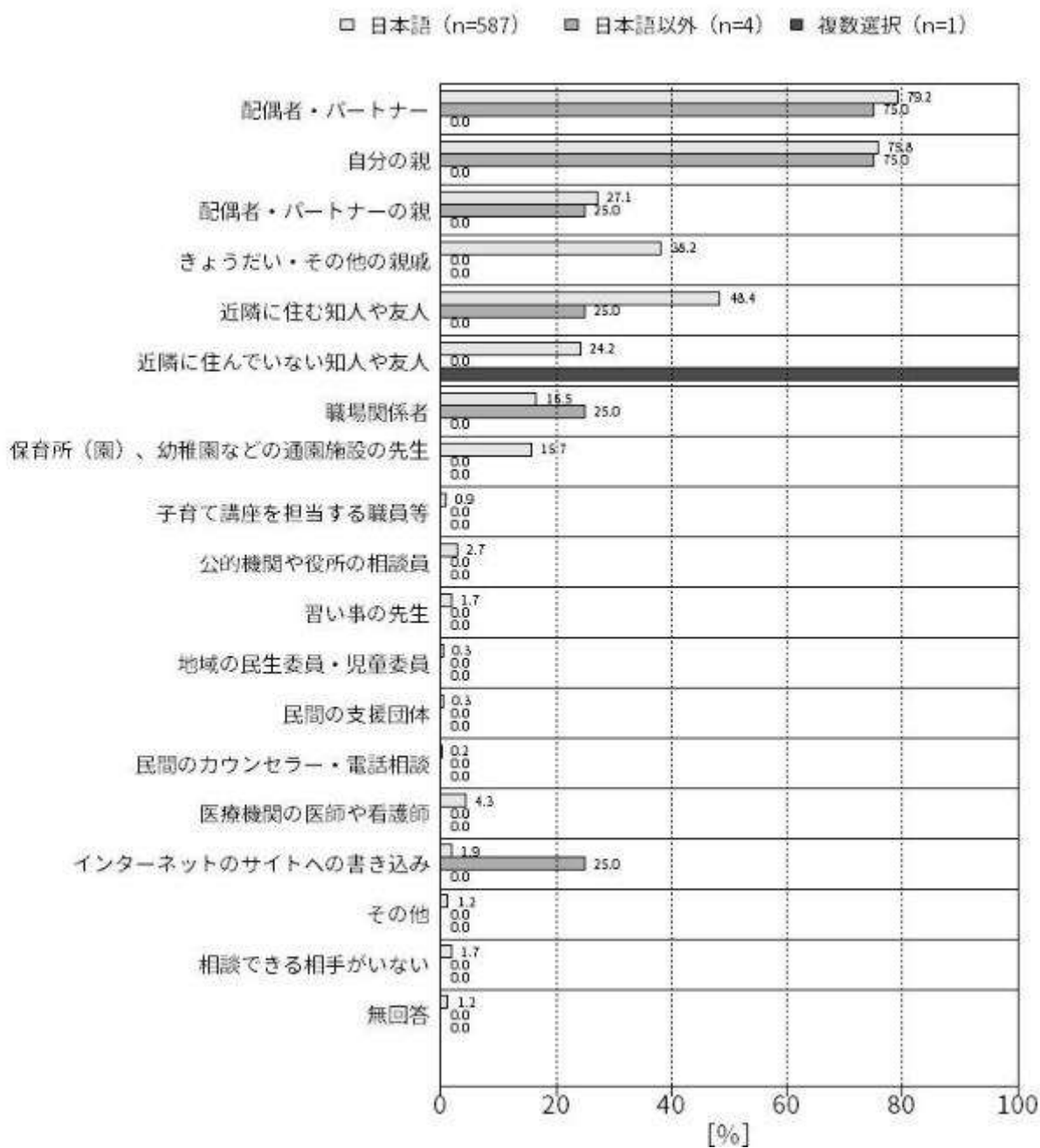
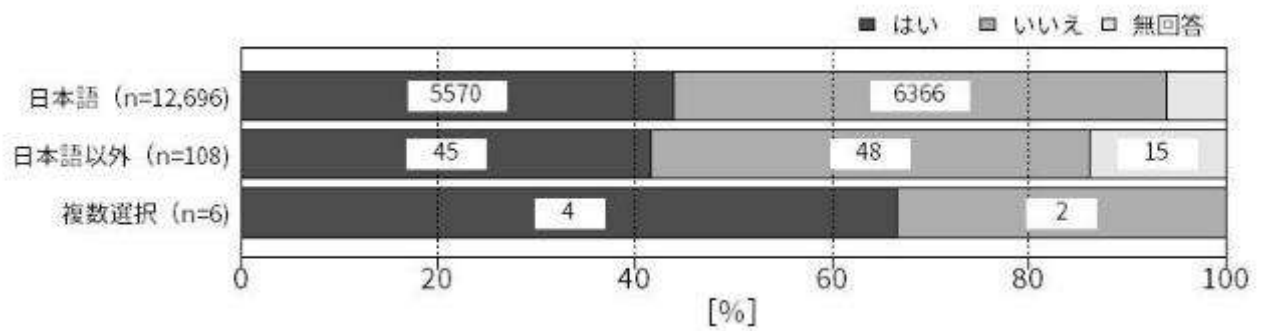


図 150. 母国語別に見た、相談相手

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、回答者の健康診断受診の有無（問2×問39）

<大阪市24区>



<大阪市住之江区>

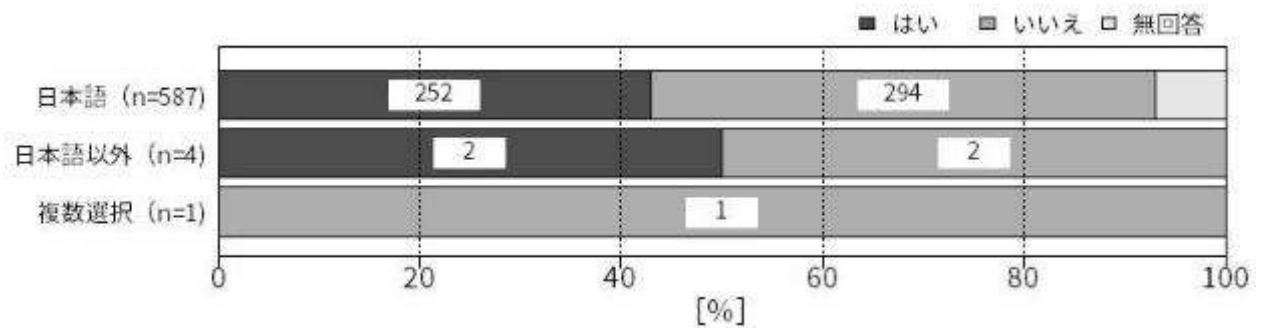
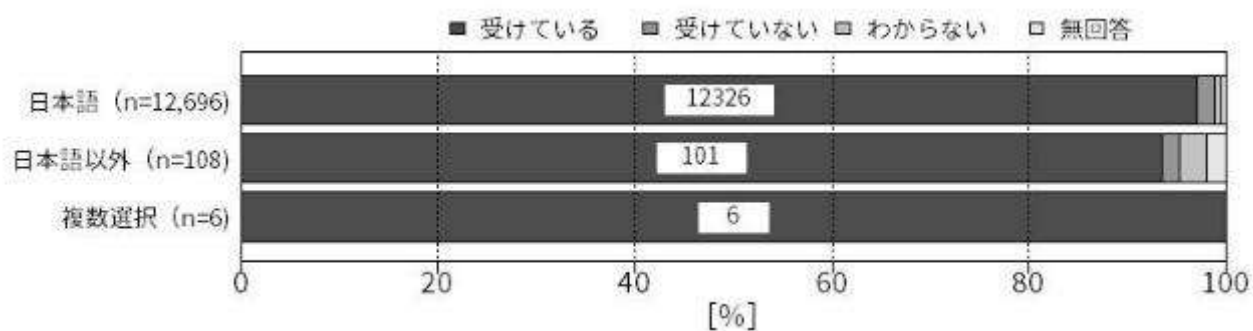


図 151. 母国語別に見た、回答者の健康診断受診の有無

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、予防接種（麻しん・風しん混合ワクチン）受診の有無（問2×問27）

<大阪市24区>



<大阪市住之江区>

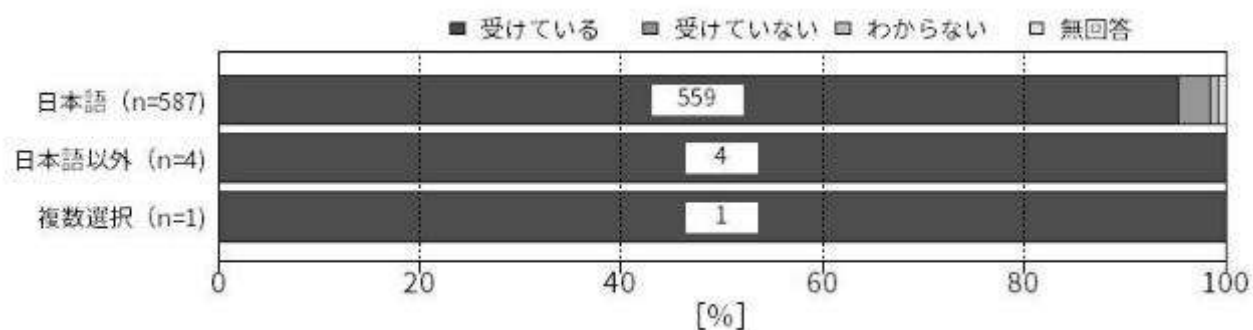
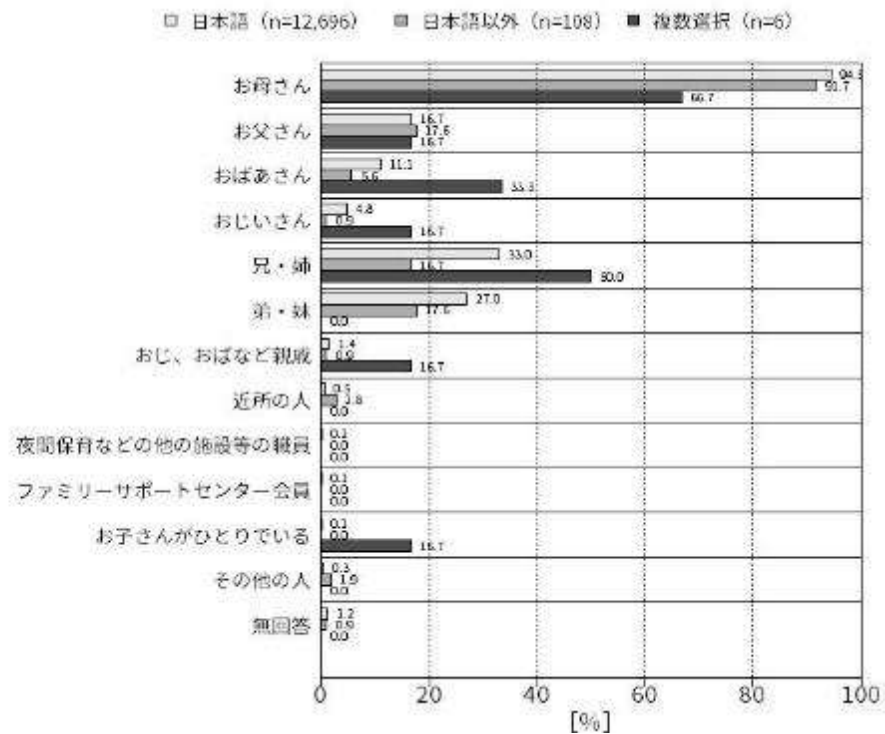


図 152. 母国語別に見た、予防接種（麻しん・風しん混合ワクチン）受診の有無

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、子と過ごす人（問2×問10）

<大阪市24区>



<大阪市住之江区>

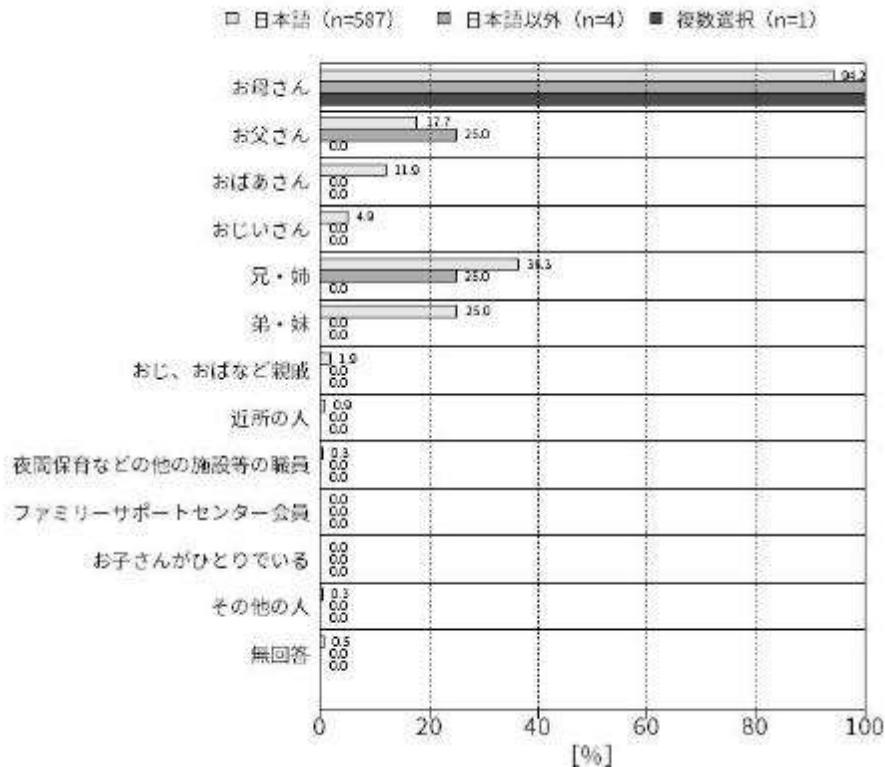
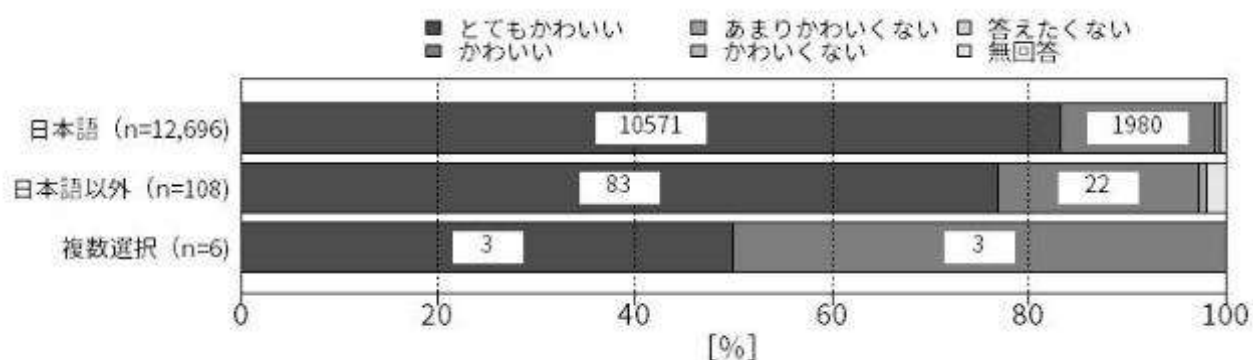


図 153. 母国語別に見た、子と過ごす人

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、子との関係（１）子どもをかわいいと思うか（問２×問３１-１）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

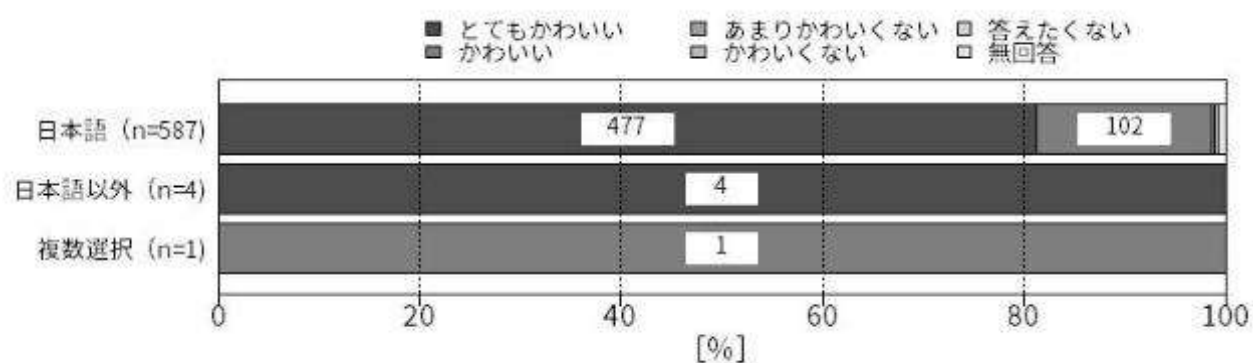
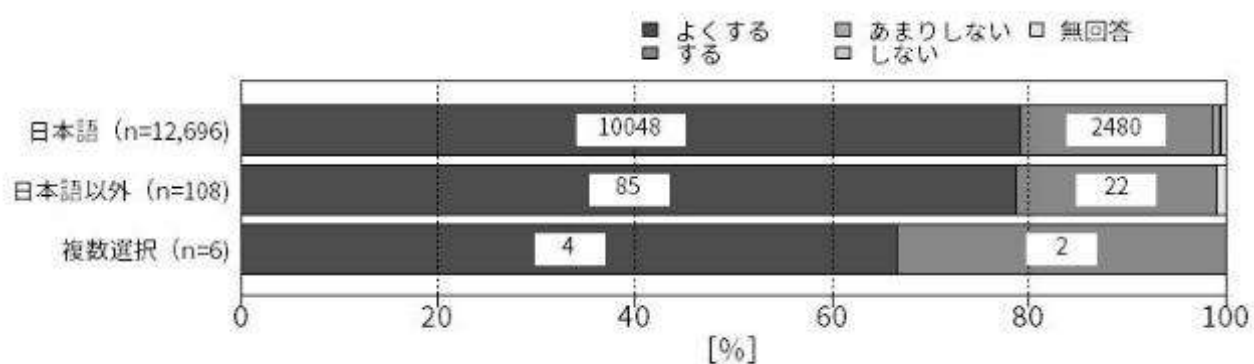


図 154. 母国語別に見た、子との関係（１）子どもをかわいいと思うか

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、子との関係（２）子どもと会話（問２×問３１-２）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

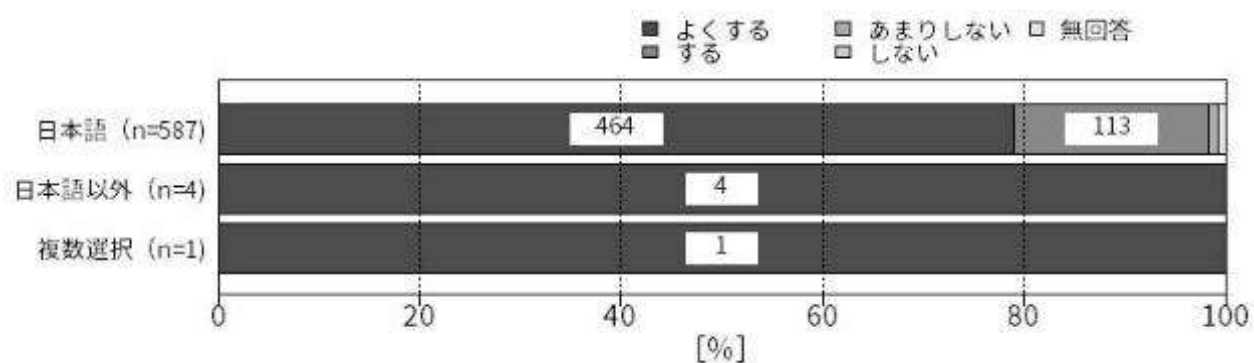


図 155. 母国語別に見た、子との関係（２）子どもと会話

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（平日）（問２×問３１-３-平日）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

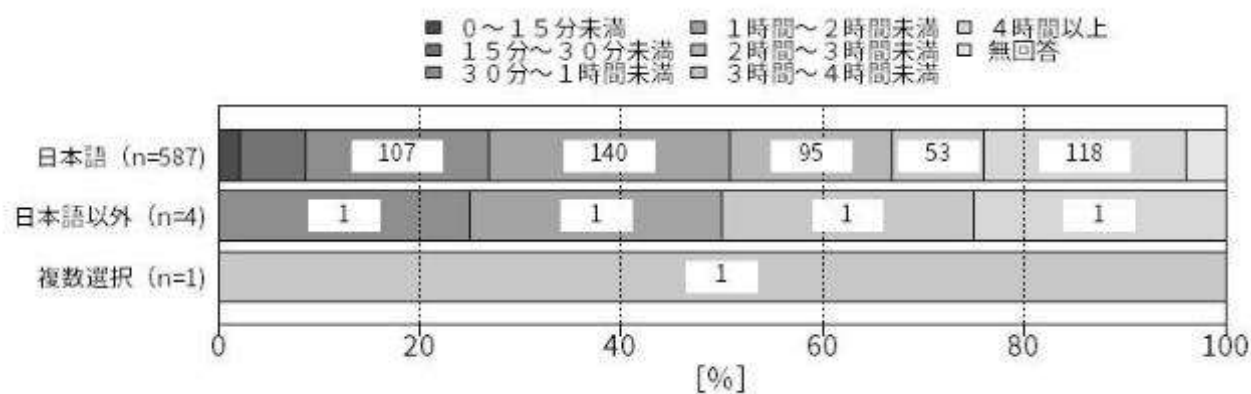
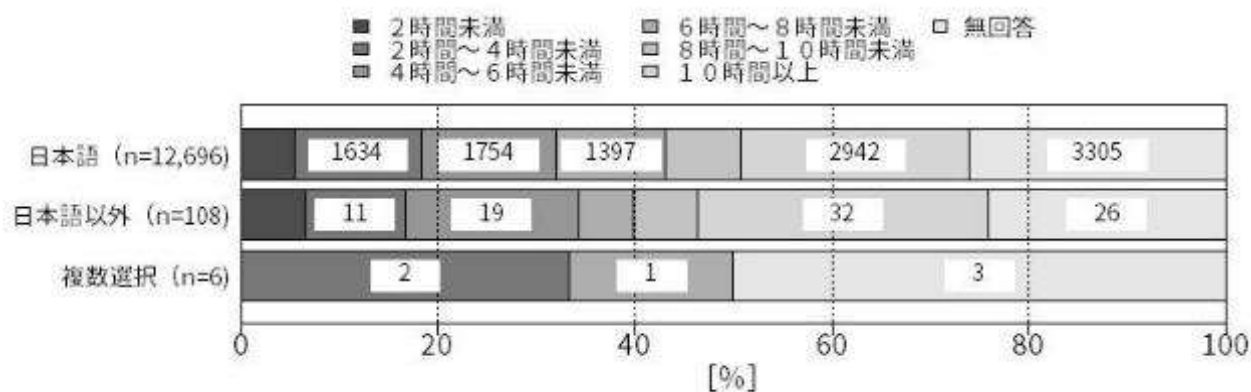


図 156. 母国語別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（平日）

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

母国語別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（休日）（問２×問３１-３-休日）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

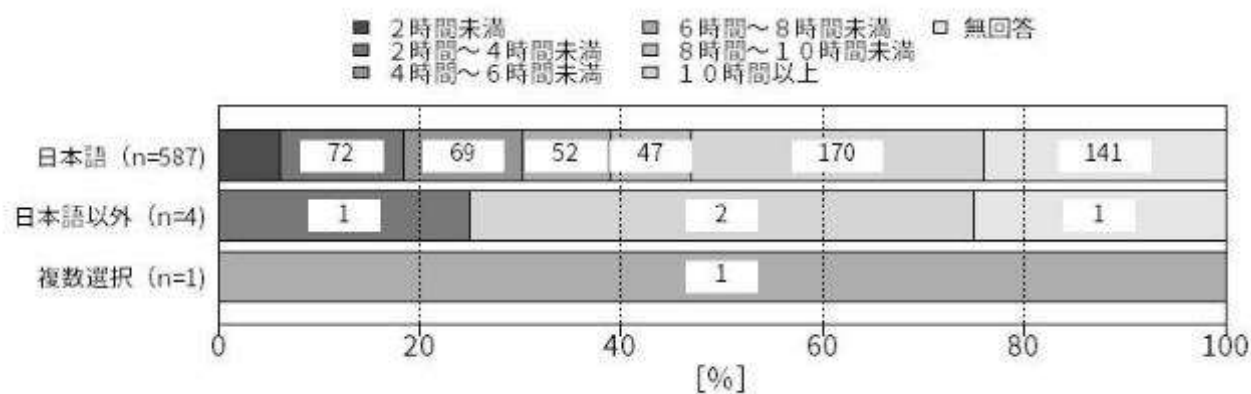
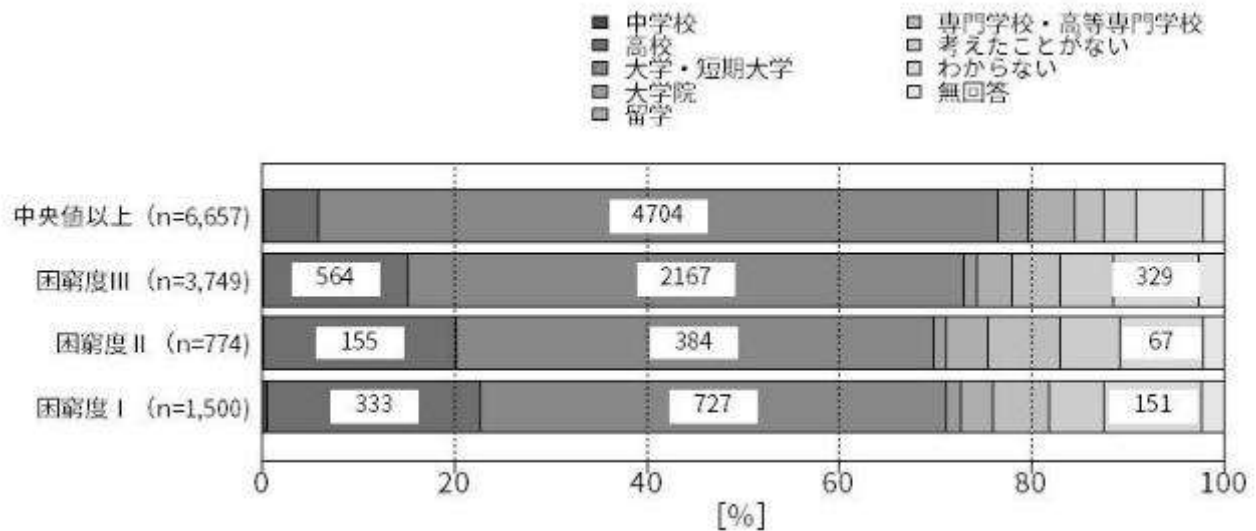


図 157. 母国語別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（休日）

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

困窮度別に見た、子の進学先希望（問 32）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

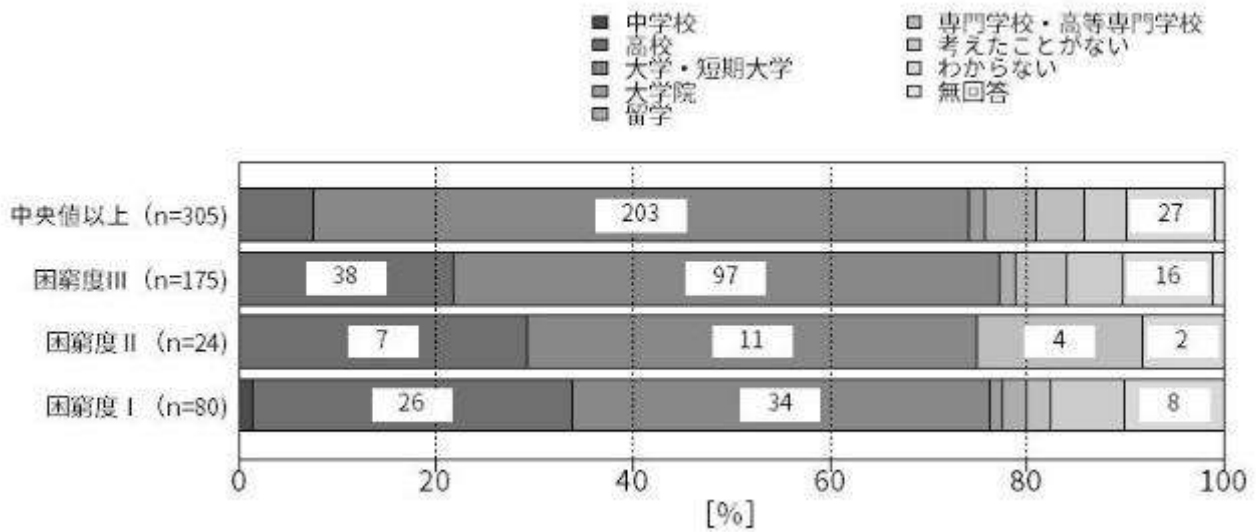
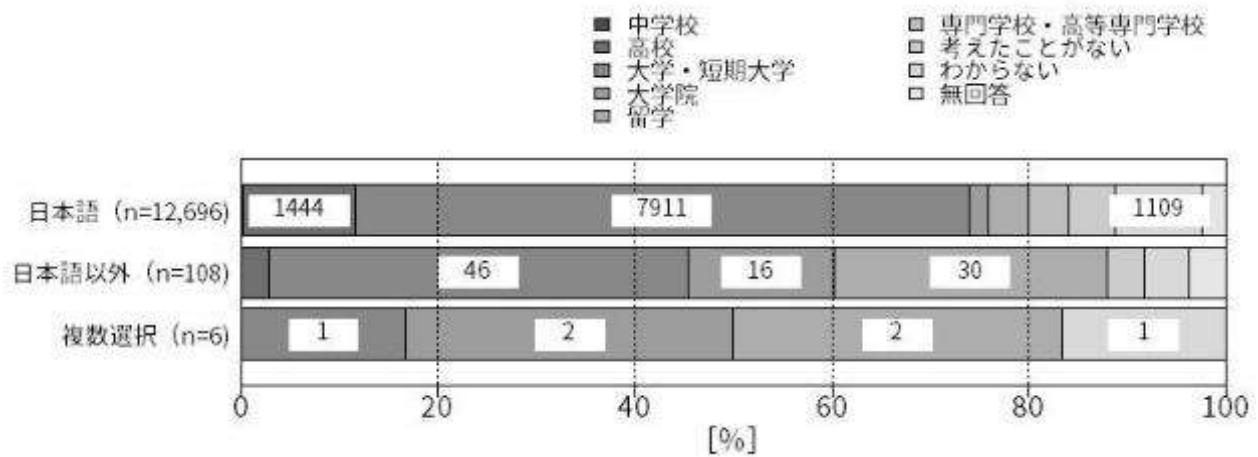


図 158. 困窮度別に見た、子の進学先希望

困窮度が高くなるにつれ、子どもの進学先を「高校」までと希望する割合が多くなっている。「高校」までと回答した割合は、中央値以上群では 7.5%であり、困窮度Ⅰ群では 32.5%だった。

母国語別に見た、子の進学先希望（問 2×問 32）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

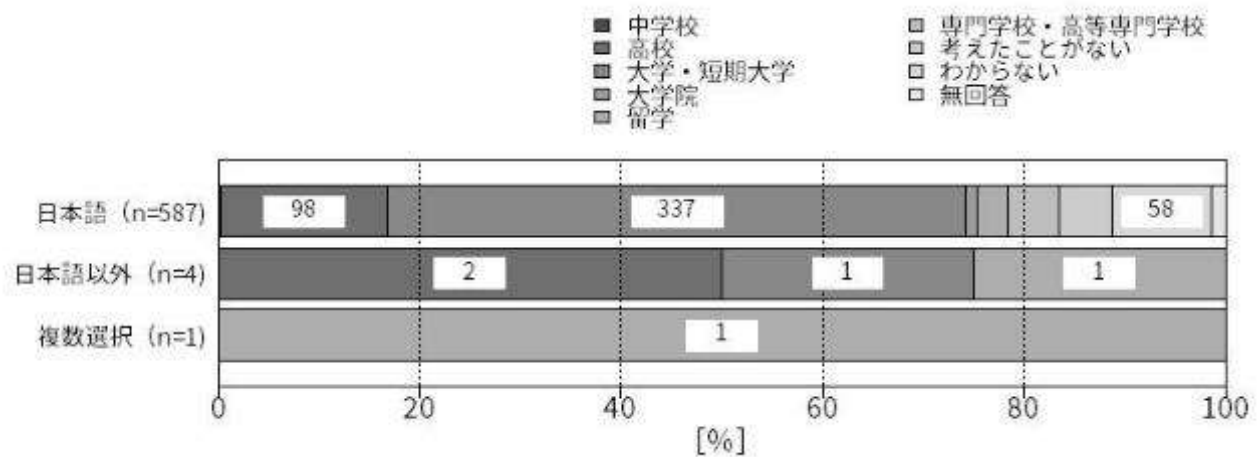
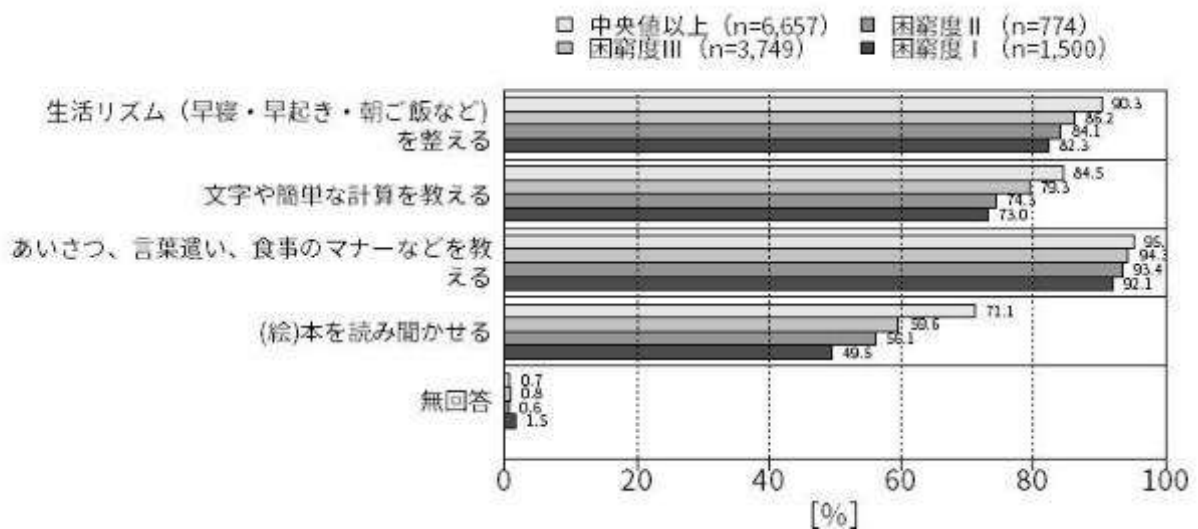


図 159. 母国語別に見た、子の進学先希望

日本語以外の世帯・複数を選択した世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べることはできない。

困窮度別に見た、しつけ（問 30）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

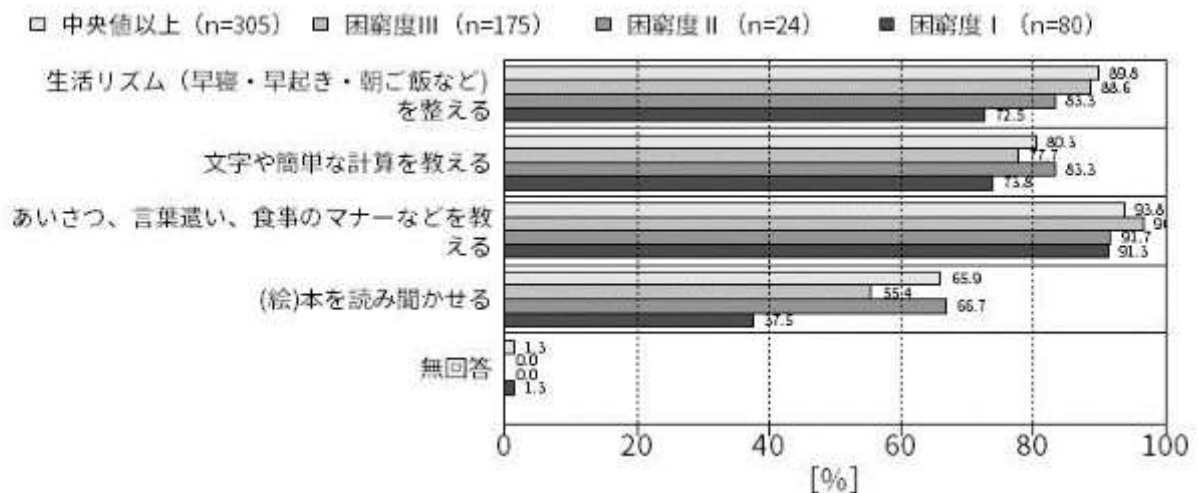
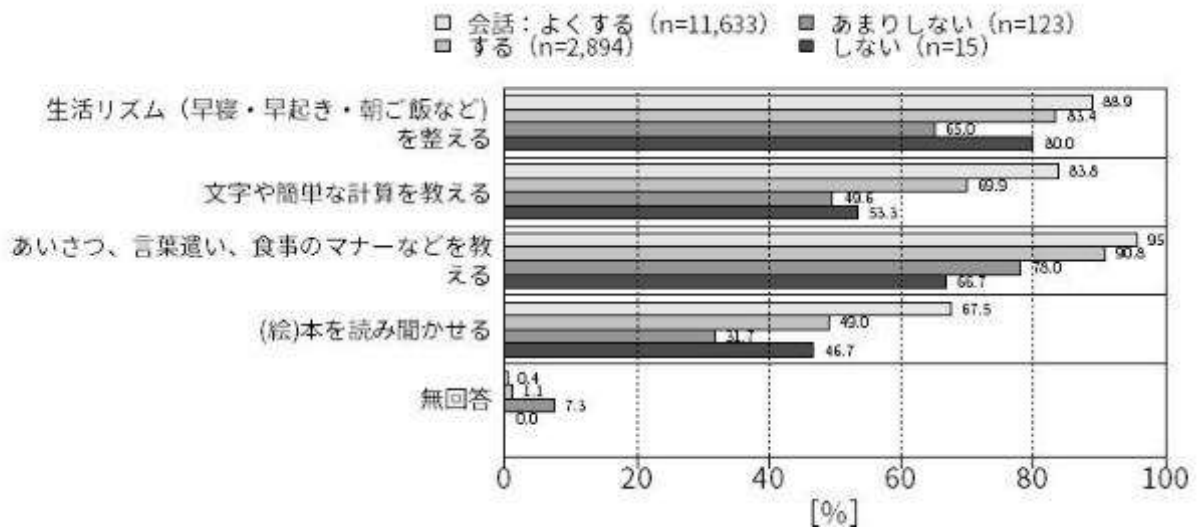


図 160. 困窮度別に見た、しつけ

子どもに対してしていることについて「生活リズム（早睡・早起き・朝ごはんなど）を整える」と回答した割合は、中央値以上群では 89.8%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 72.5%だった。「文字や簡単な計算を教える」と回答した割合は、中央値以上群では 80.3%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 73.8%だった。「（絵）本を読み聞かせる」と回答した割合は、中央値以上群では 65.9%であったのに対して、困窮度Ⅰ群では 37.5%だった。

会話の頻度別に見た、しつけ（問 31×問 30）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

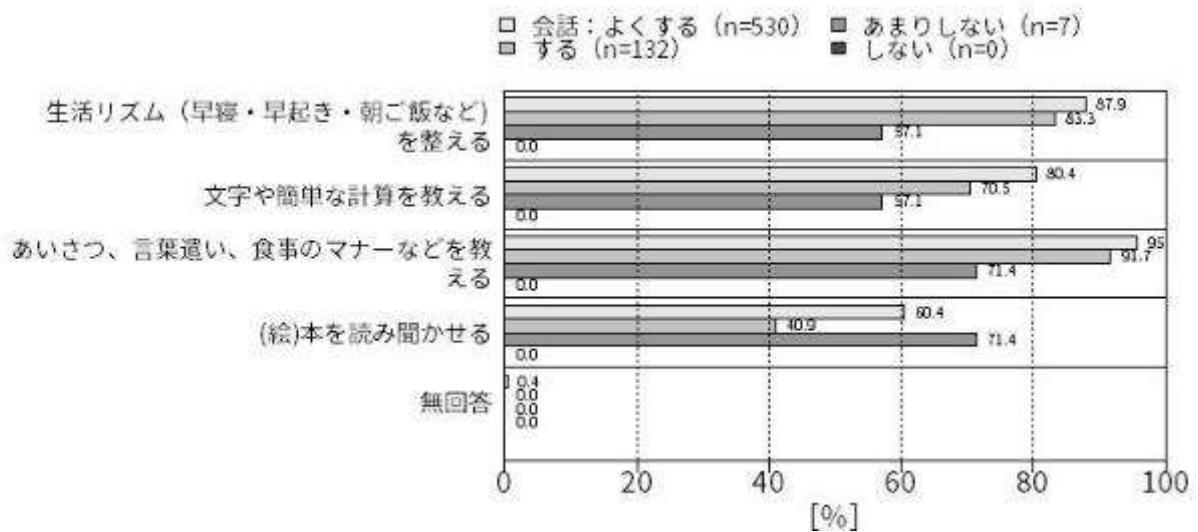
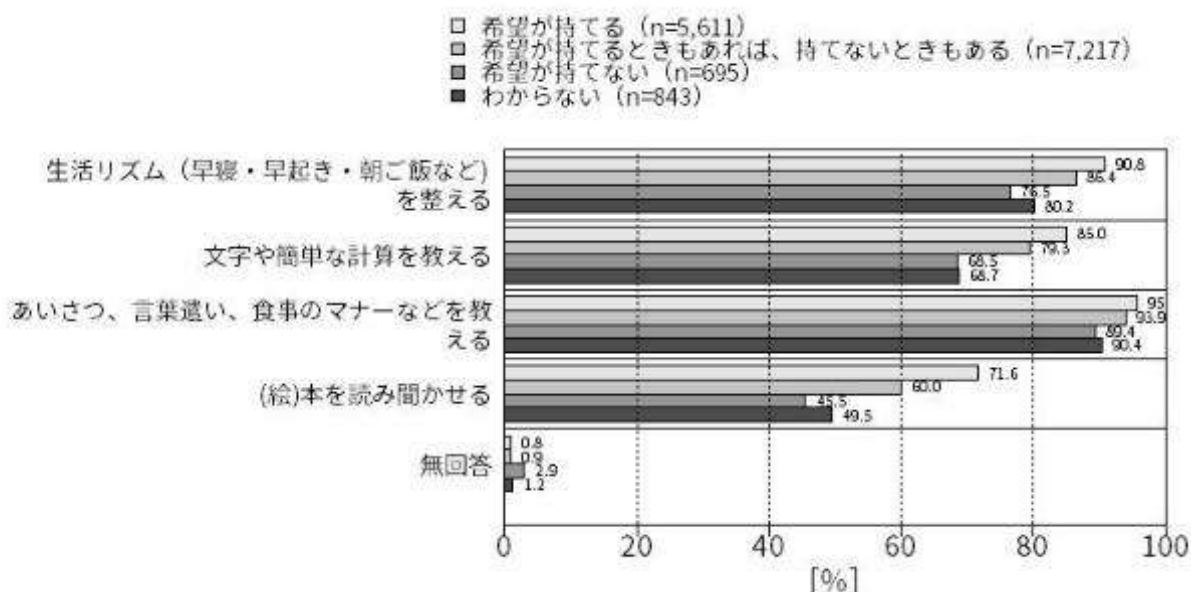


図 161. 会話の頻度別に見た、しつけ

会話の頻度別に子どもに対するしつけについて見ると、会話をよくする群では「生活リズム（早寝・早起き・朝ごはんなど）を整える」と回答した割合は 87.9%、「文字や簡単な計算を教える」と回答した割合は 80.4%、「あいさつ、言葉遣い、食事のマナーなどを教える」と回答した割合は 95.7%、「（絵）本を読み聞かせる」と回答した割合は 60.4%であった。

回答者の将来への希望別に見た、しつけ（問 36-2×問 30）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

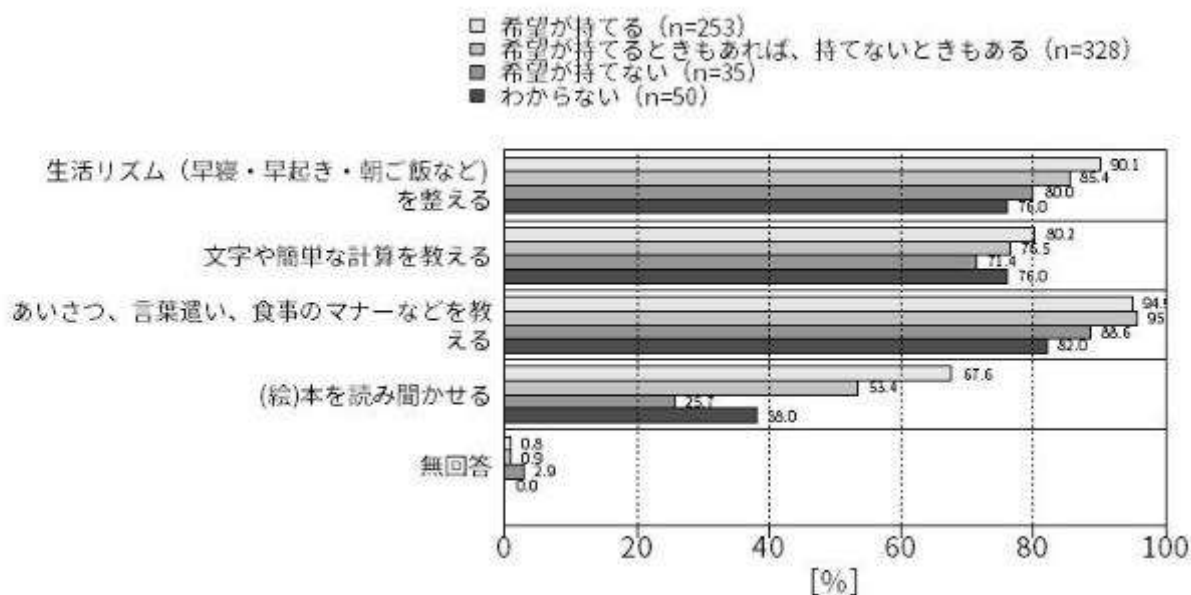
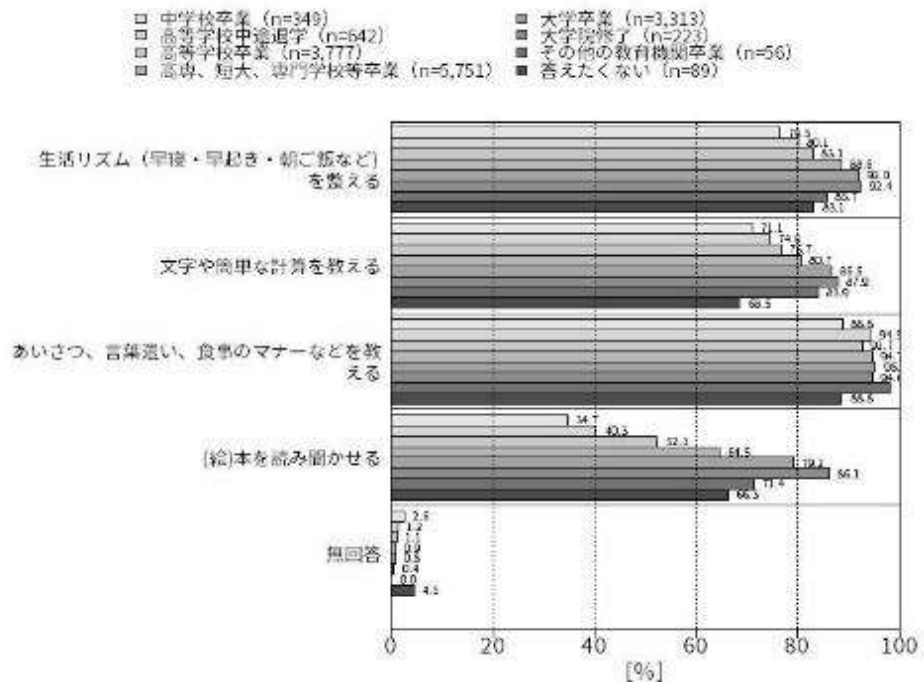


図 162. 回答者の将来への希望別に見た、しつけ

将来への希望別に子どもに対するしつけについて見ると、「生活リズム（早寝・早起き・朝ごはんなど）を整える」と回答した割合は、希望が持てる群では 90.9%であったのに対して、希望が持てない群では 73.9%だった。「文字や簡単な計算を教える」と回答した割合は、希望が持てる群では 87.4%であったのに対して、希望が持てない群では 76.1%だった。「（絵）本を読み聞かせる」と回答した割合は、希望が持てる群では 75.3%であったのに対して、希望が持てない群では 41.3%だった。

母親の最終学歴別に見た、しつけ（問 7×問 30）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

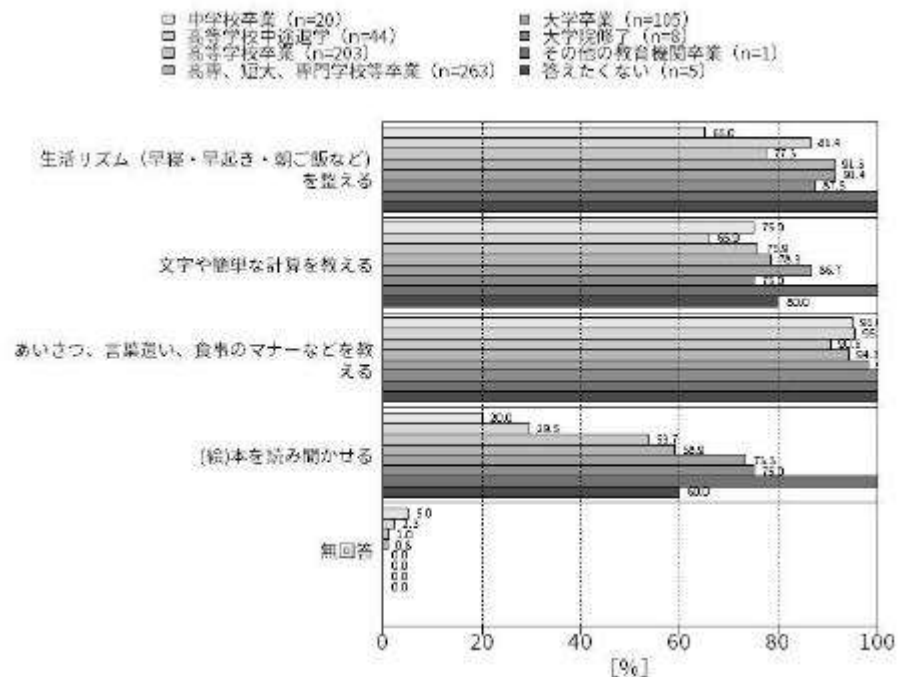
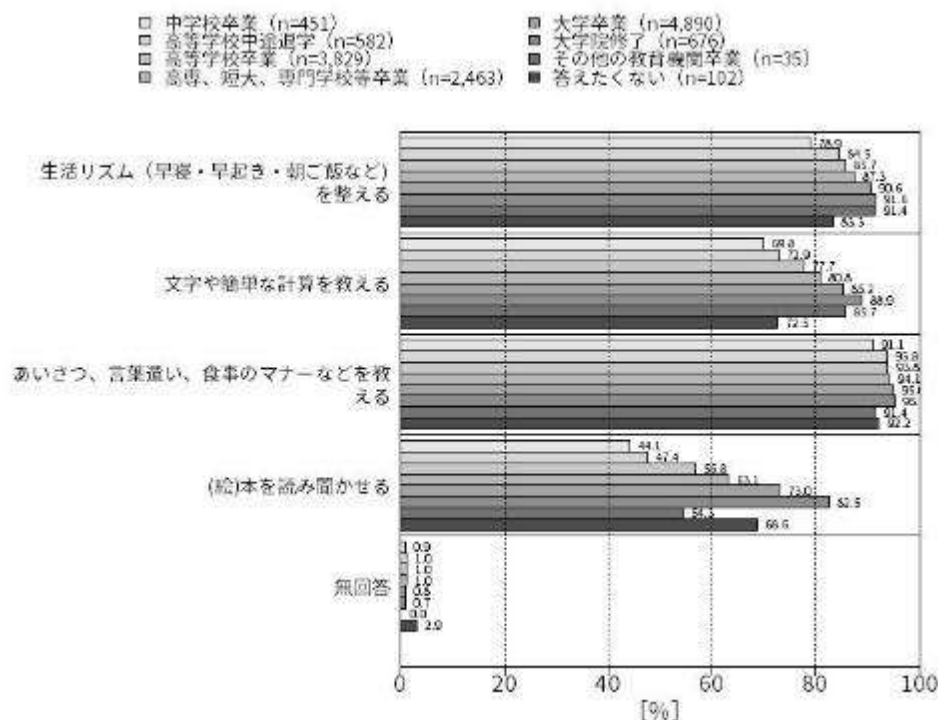


図 163. 母親の最終学歴別に見た、しつけ

母親の学歴が中学校卒業群では、「生活リズム（早寝・早起き・朝ごはんなど）を整える」と回答した割合は 65.0%、「文字や簡単な計算を教える」と回答した割合は 75.0%、「あいさつ、言葉遣い、食事のマナーなどを教える」と回答した割合は 95.0%、「（絵）本を読み聞かせる」と回答した割合は 20.0%であった。

父親の最終学歴別に見た、しつけ（問 7×問 30）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

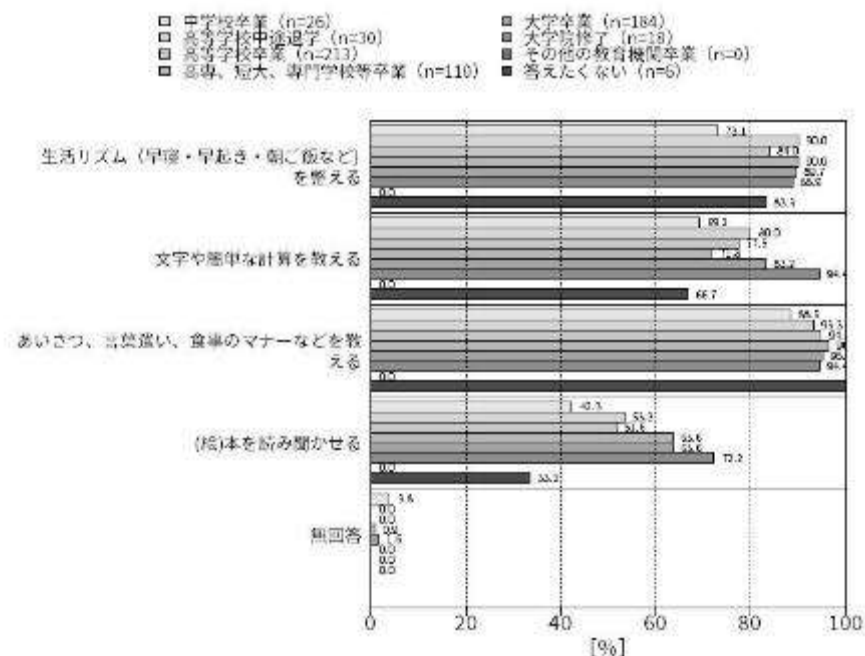
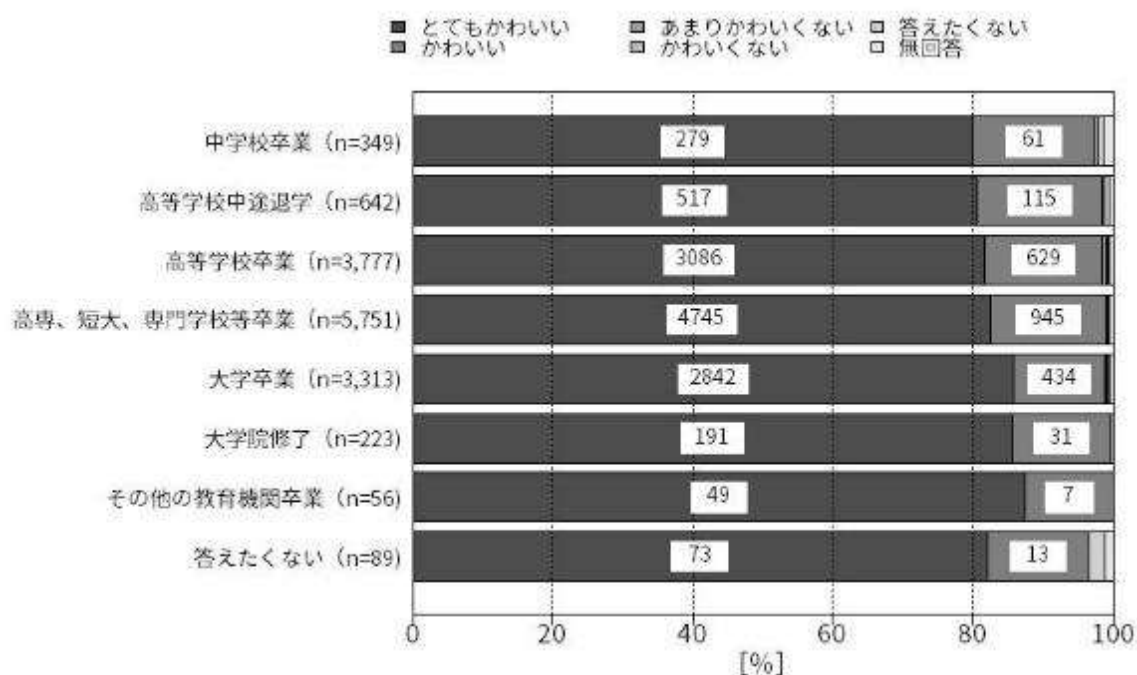


図 164. 父親の最終学歴別に見た、しつけ

父親の学歴が中学校卒業群では、「生活リズム（早寝・早起き・朝ごはんなど）を整える」と回答した割合は 73.1%、「文字や簡単な計算を教える」と回答した割合は 69.2%、「あいさつ、言葉遣い、食事のマナーなどを教える」と回答した割合は 88.5%、「（絵）本を読み聞かせる」と回答した割合は 42.3%であった。

母親の最終学歴別に見た、子との関係（１）子どもをかわいいと思うか（問 7×問 31-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

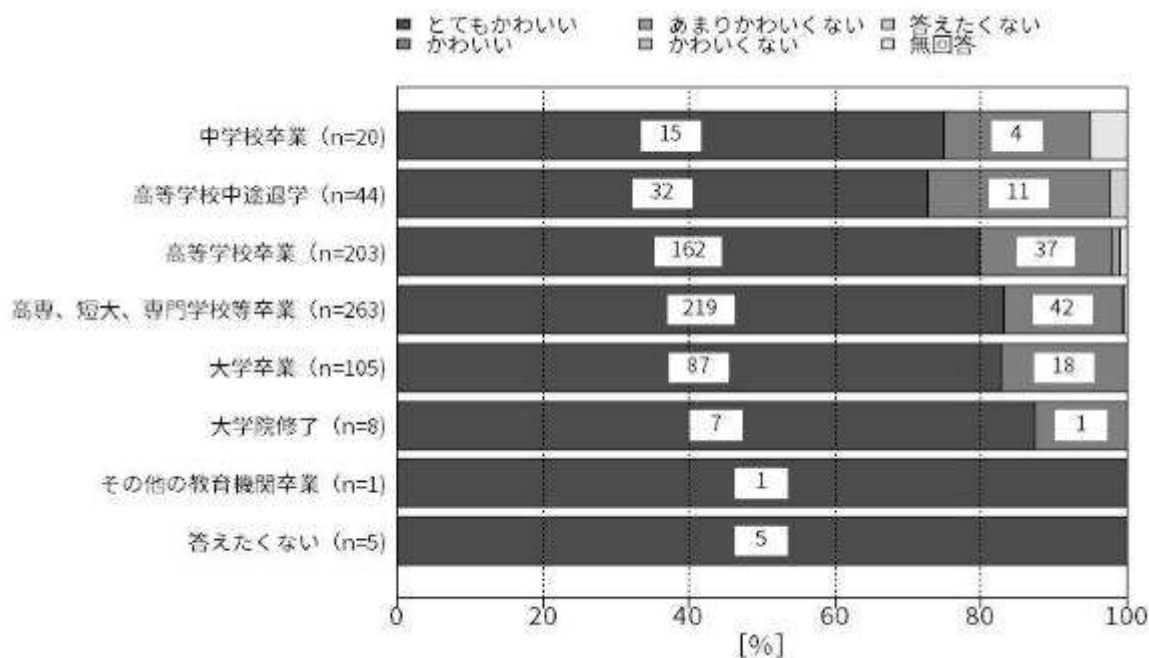
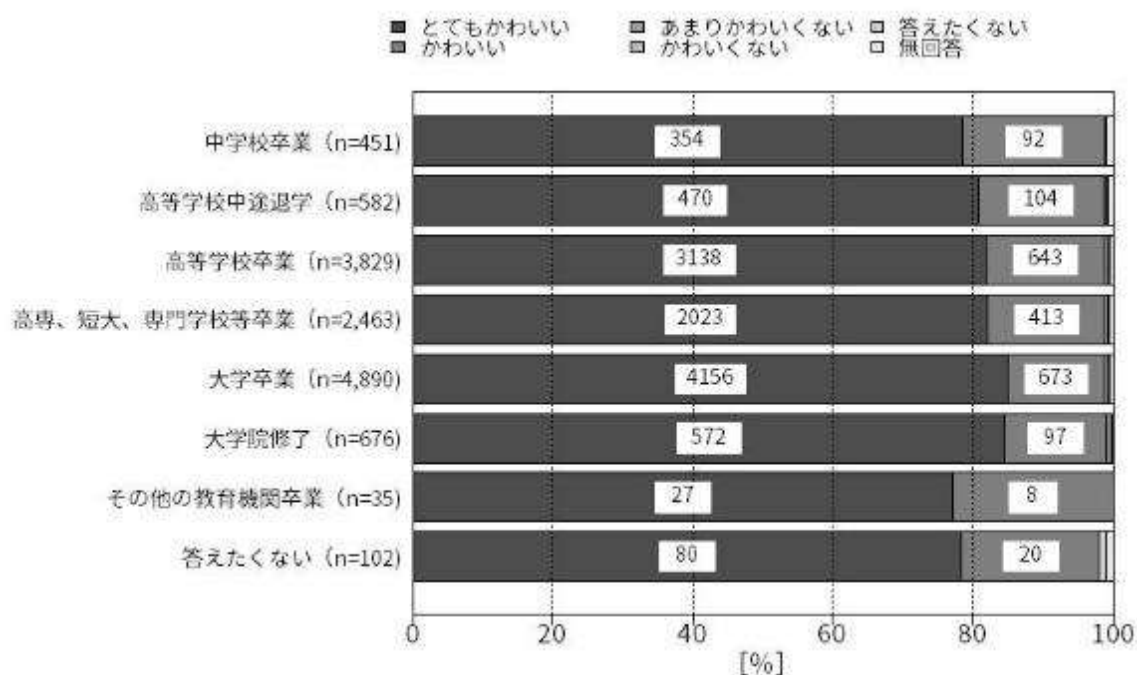


図 165. 母親の最終学歴別に見た、子との関係（１）子どもをかわいいと思うか

母親の学歴が高まるにつれて、「とてもかわいい」と思う割合が高くなっている。中学校卒業・高等学校中途退学では、子どもを「とてもかわいい」と思う割合が低くなる傾向にあった。子どもを「とてもかわいい」と思う割合は中学校卒業群では 75.0%であった。

父親の最終学歴別に見た、子との関係（１）子どもをかわいいと思うか（問 7×問 31-1）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

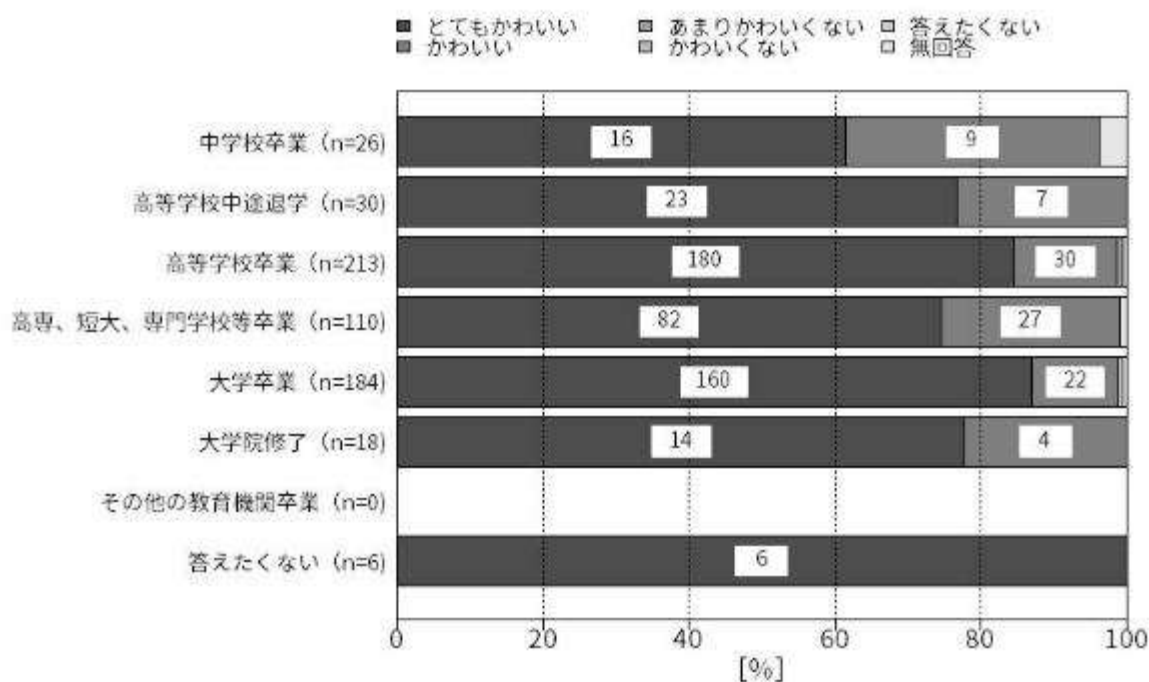
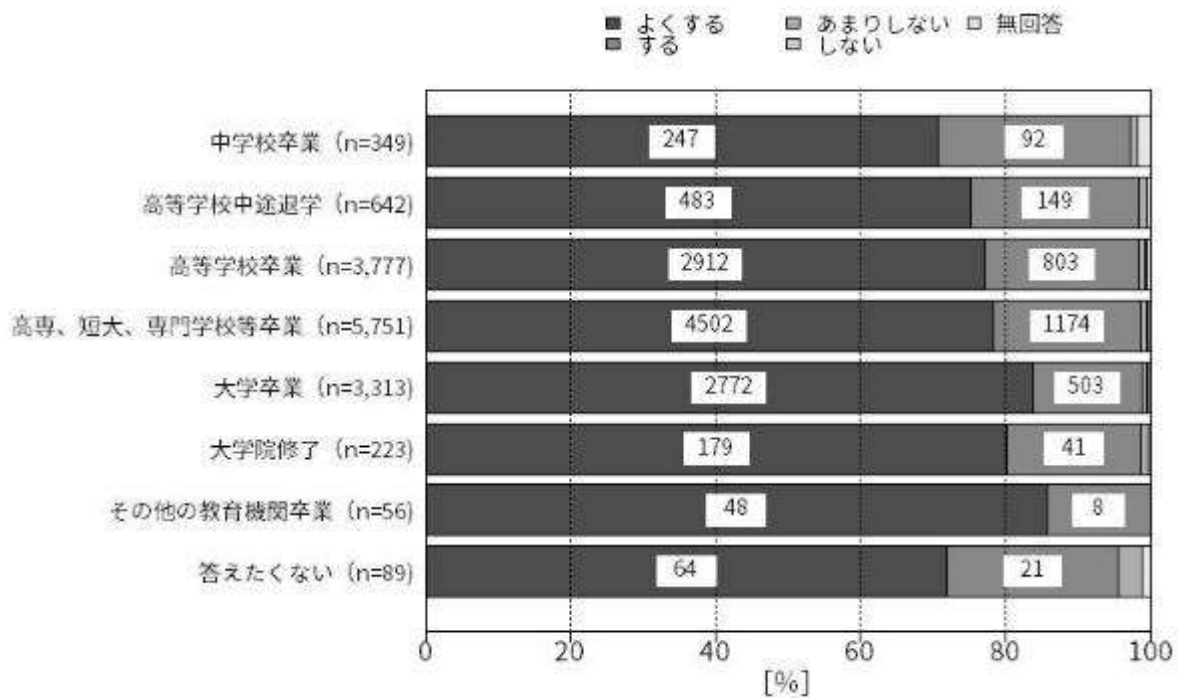


図 166. 父親の最終学歴別に見た、子との関係（１）子どもをかわいいと思うか

父親の学歴によって、子どもを「かわいい」と思うことについて大きな差は見られなかった。

母親の最終学歴別に見た、子との関係（２）子どもと会話（問 7×問 31-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

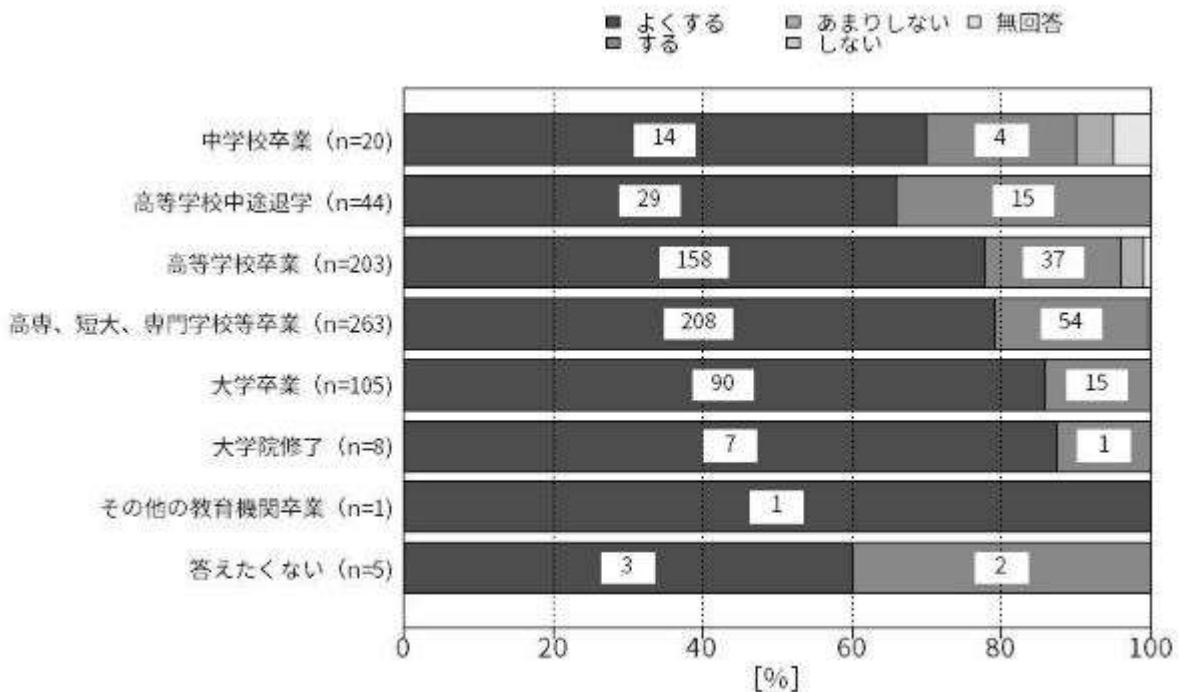
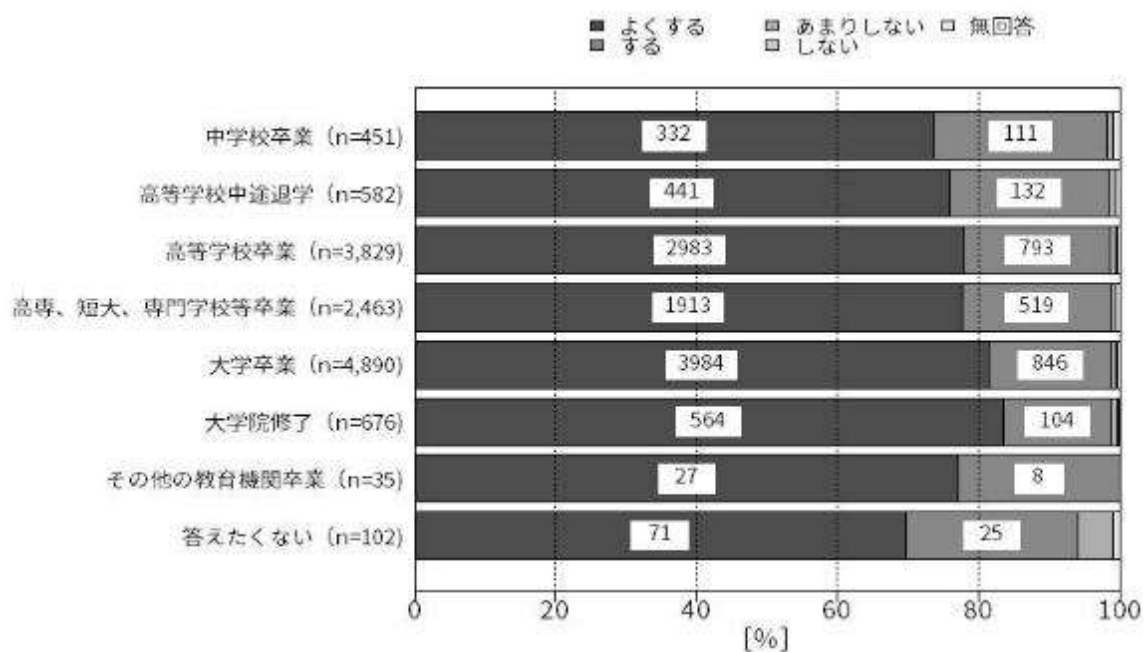


図 167. 母親の最終学歴別に見た、子との関係（２）子どもと会話

母親の学歴が中学校卒業・高等学校中途退学では、子どもとの会話を「よくする」と回答した割合が低くなる傾向にあった。子どもとの会話を「よくする」と回答した割合は中学校卒業群では 70.0%であった。学歴が高まるにつれて、会話「よくする」の割合が高くなっていった。

父親の最終学歴別に見た、子との関係（２）子どもと会話（問 7×問 31-2）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

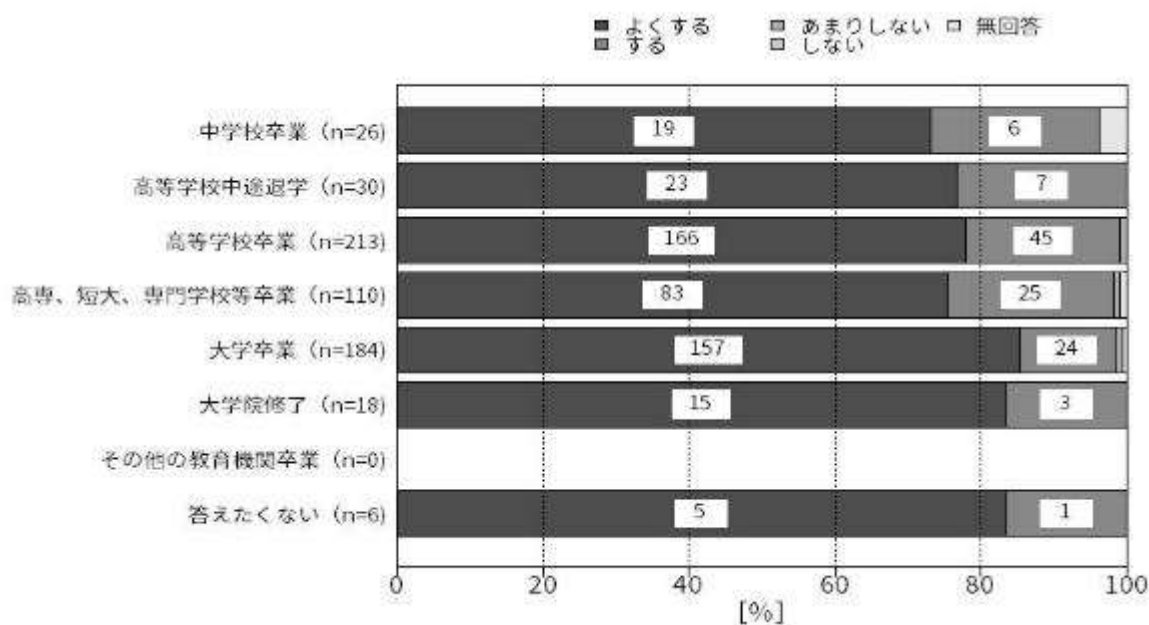
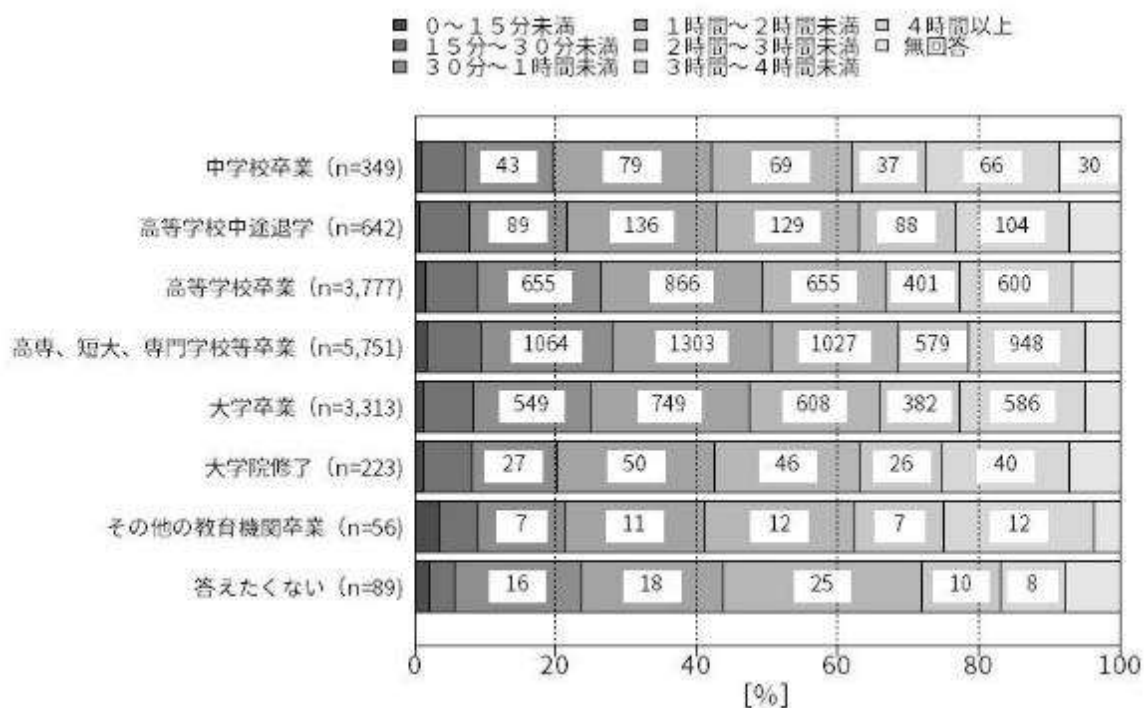


図 168. 父親の最終学歴別に見た、子との関係（２）子どもと会話

父親の学歴が中学校卒業・高等学校中途退学では、子どもとの会話を「よくする」と回答した割合が低くなる傾向にあった。子どもとの会話を「よくする」と回答した割合は中学校卒業群では 73.1%であった。学歴が高まるにつれて、会話「よくする」の割合が高くなっていた。

母親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（平日）
（問 7×問 31-3-平日）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

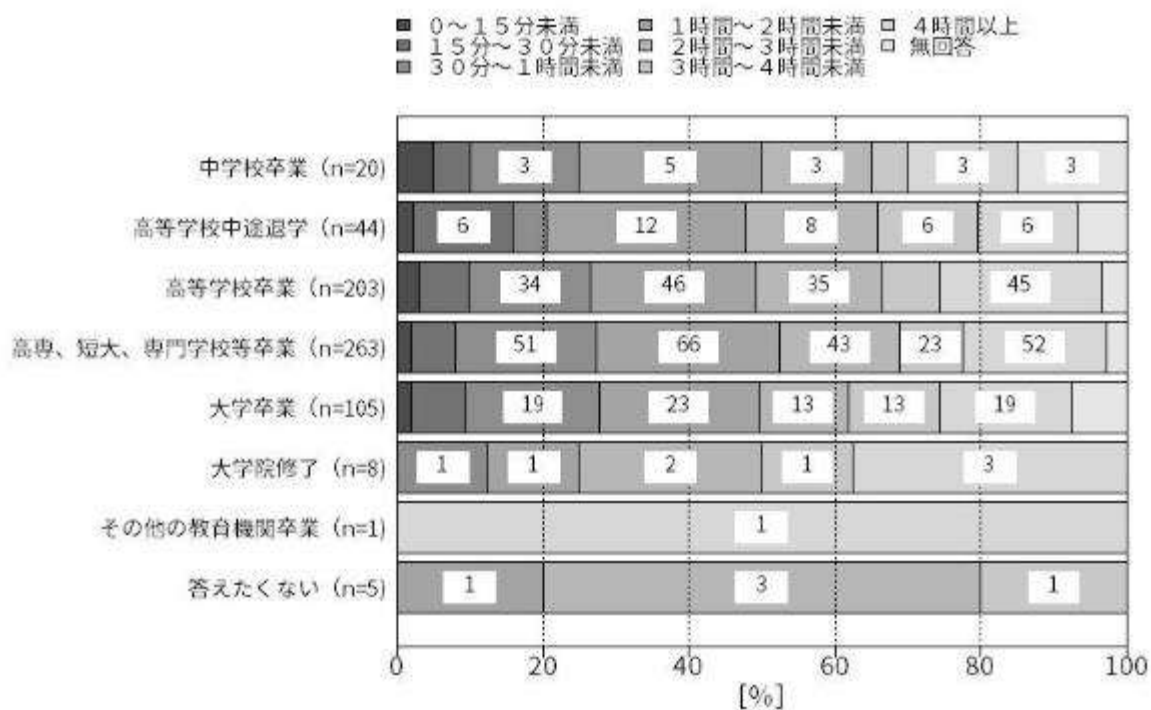
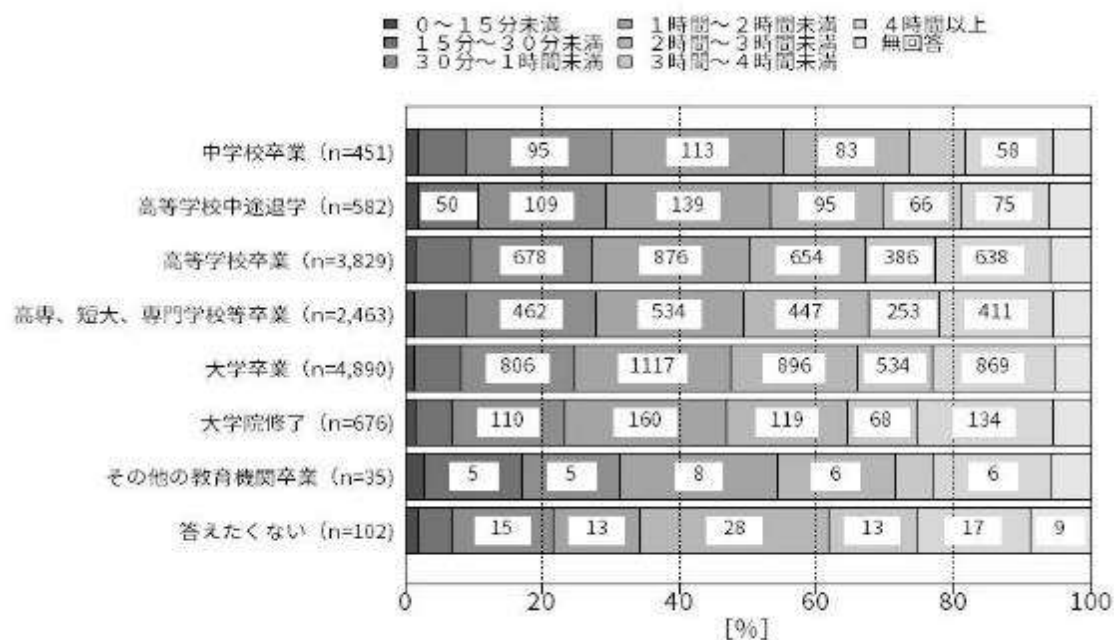


図 169. 母親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（平日）

母親の学歴と子どもと平日一緒にいる時間に関係は見られなかった。

父親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（平日）
（問 7×問 31-3-平日）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

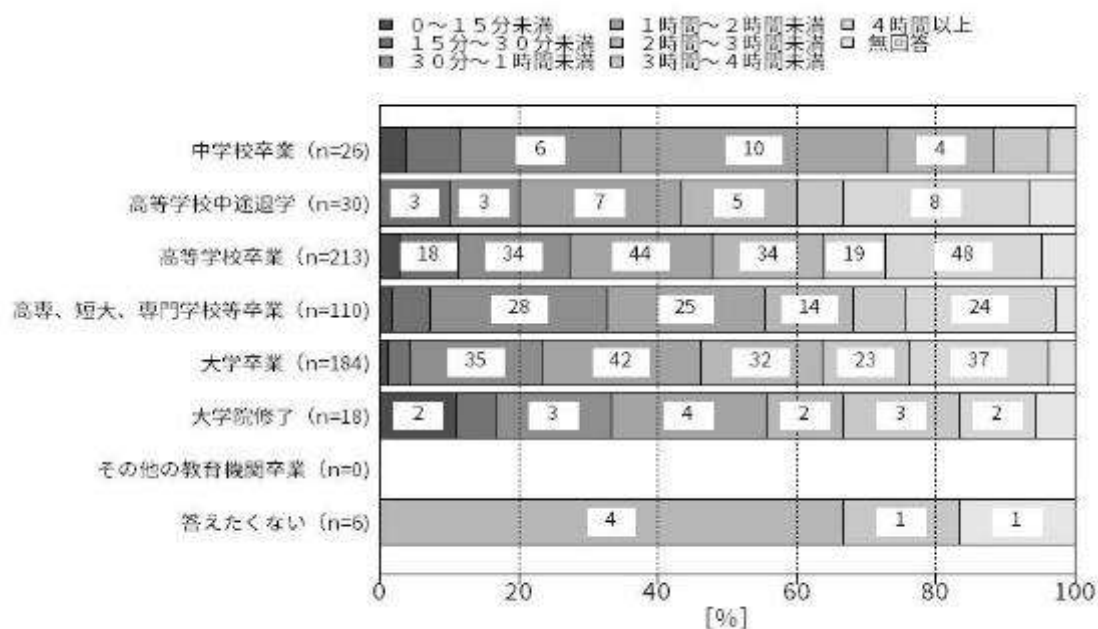
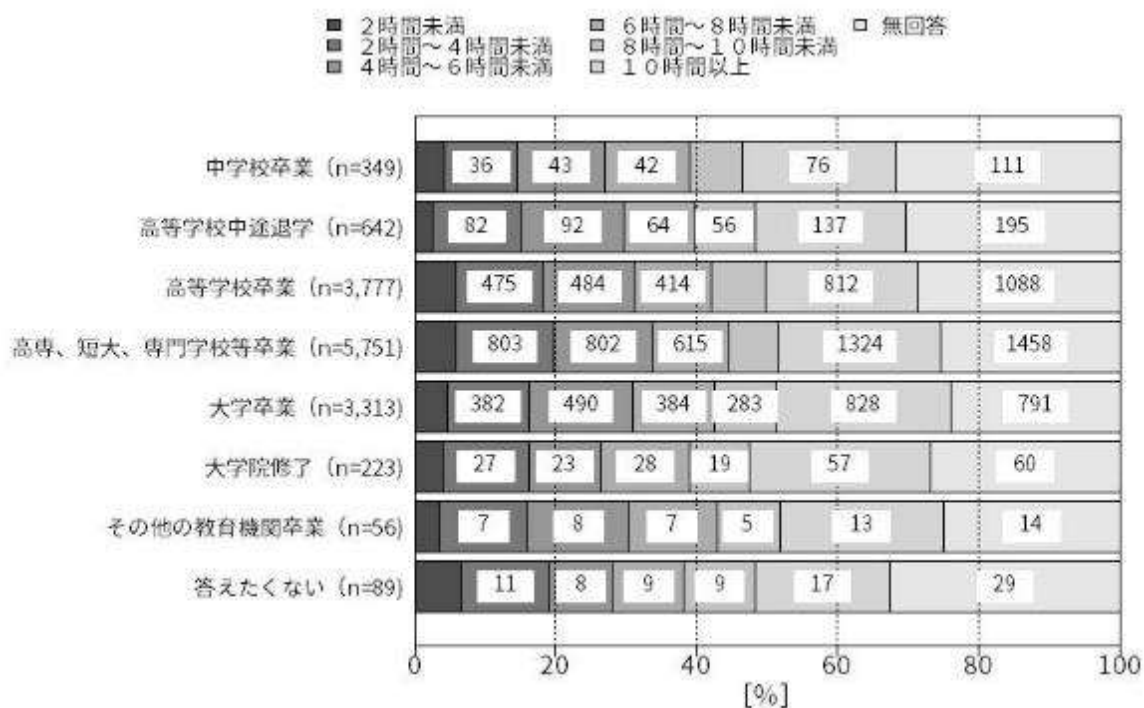


図 170. 父親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（平日）

父親の学歴と子どもと平日一緒にいる時間に関係は見られなかった。

母親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（休日）
（問 7×問 31-3-休日）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

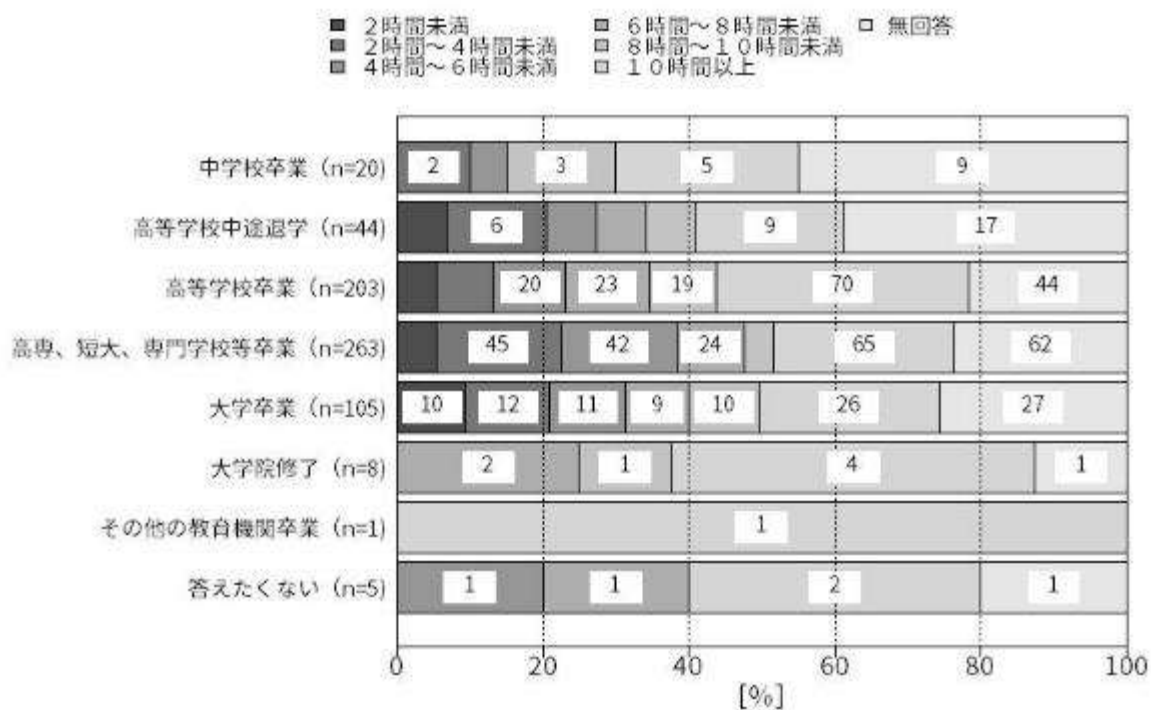
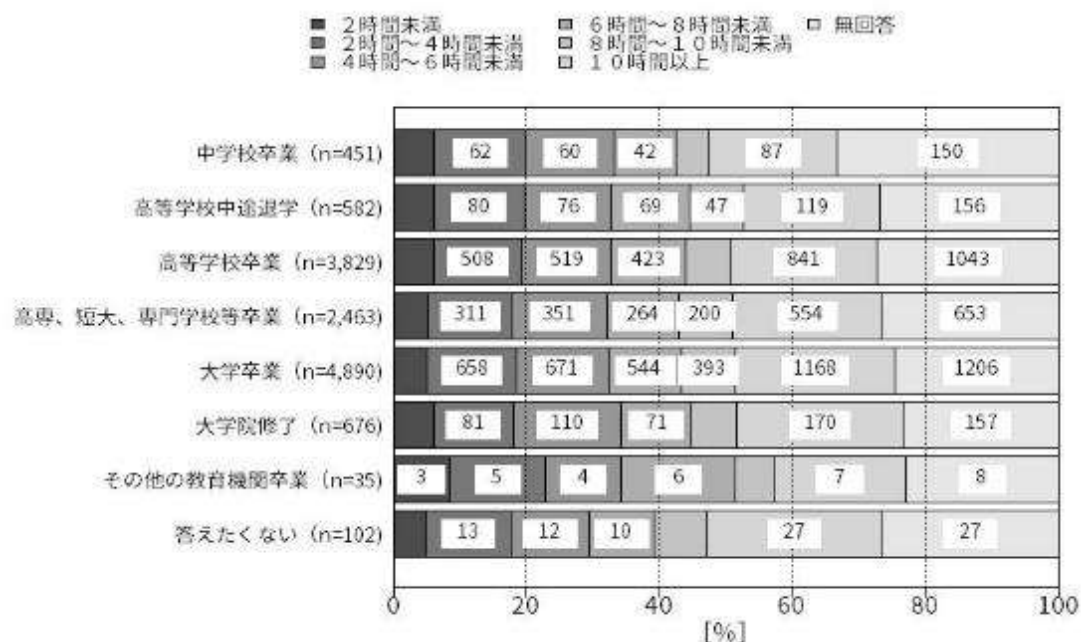


図 171. 母親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（休日）

母親の学歴と子どもと休日一緒にいる時間に関係は見られなかった。

父親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（休日）
（問 7×問 31-3-休日）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

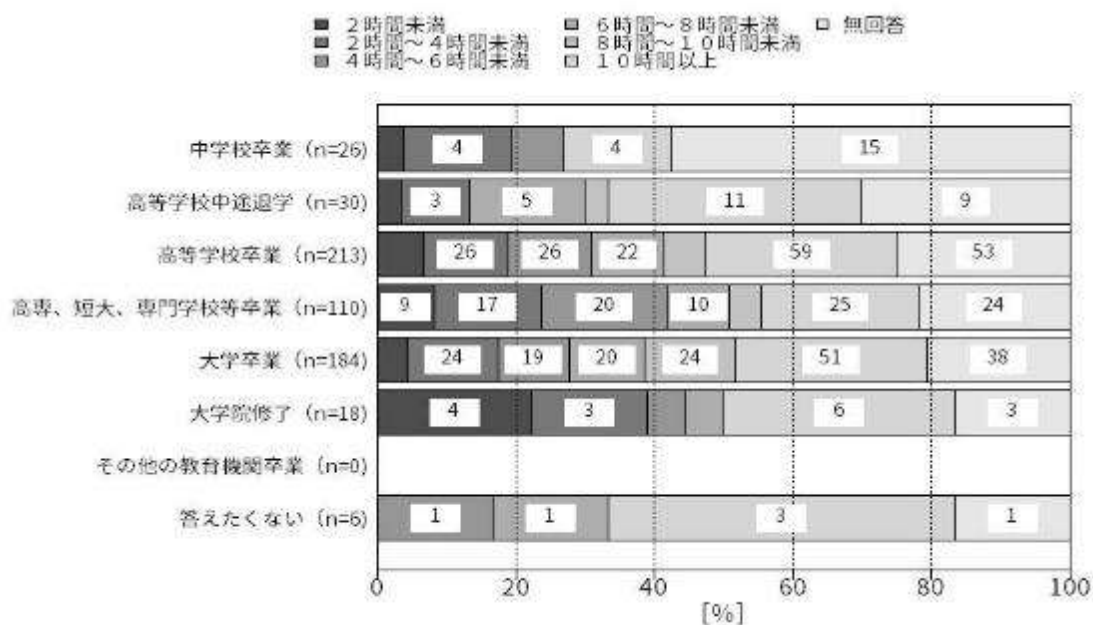


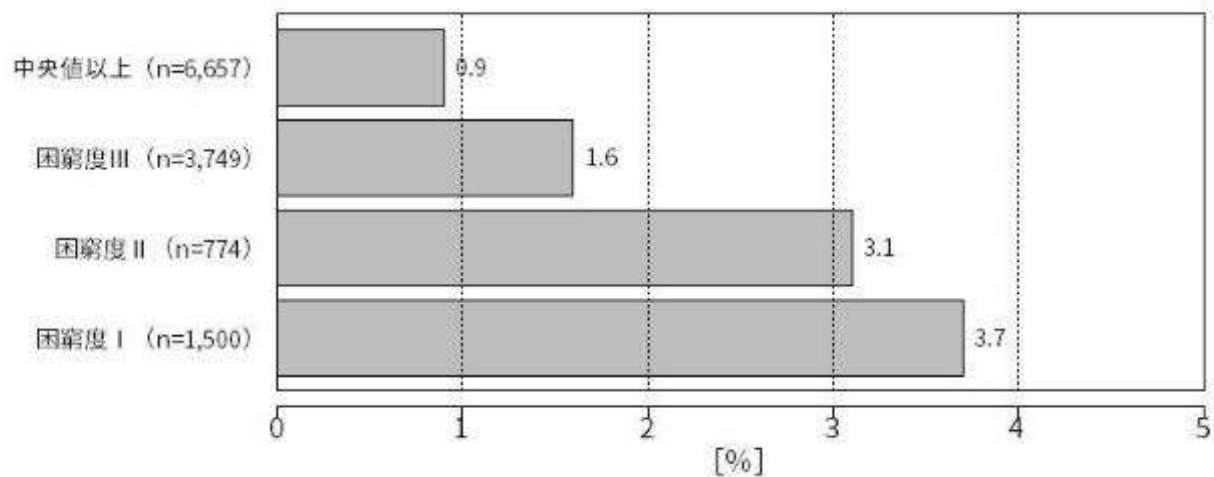
図 172. 父親の最終学歴別に見た、子との関係（３）子どもと一緒にいる時間（休日）

父親の学歴が中学校卒業・高等学校中途退学では、子どもと休日「10時間以上」一緒にいる割合が低くなる傾向にあった。子どもと休日「10時間以上」一緒にいると回答した割合は中学校卒業群では15.4%であった。

3-5. 対人関係

困窮度別に見た、相談相手のいない割合（問 35）

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

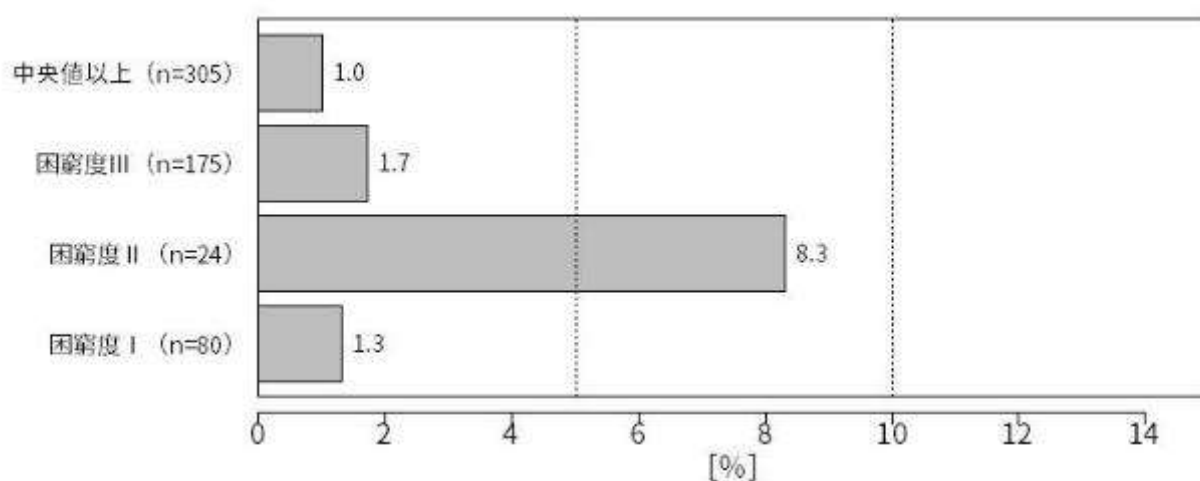
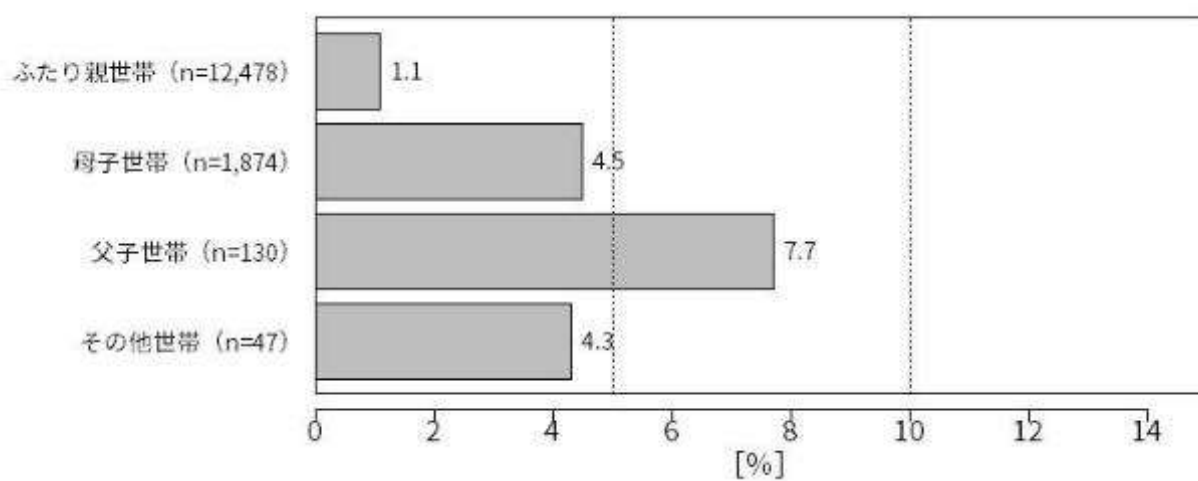


図 173. 困窮度別に見た、相談相手のいない割合

困窮度が高くなるにつれ、「相談できる相手がいない」と回答した割合が高くなっている傾向にあった。「相談できる相手がいない」と回答した割合は、中央値以上群では1.0%、困窮度Ⅰ群では1.3%となった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（問1×問35）

<大阪市24区>



<大阪市住之江区>

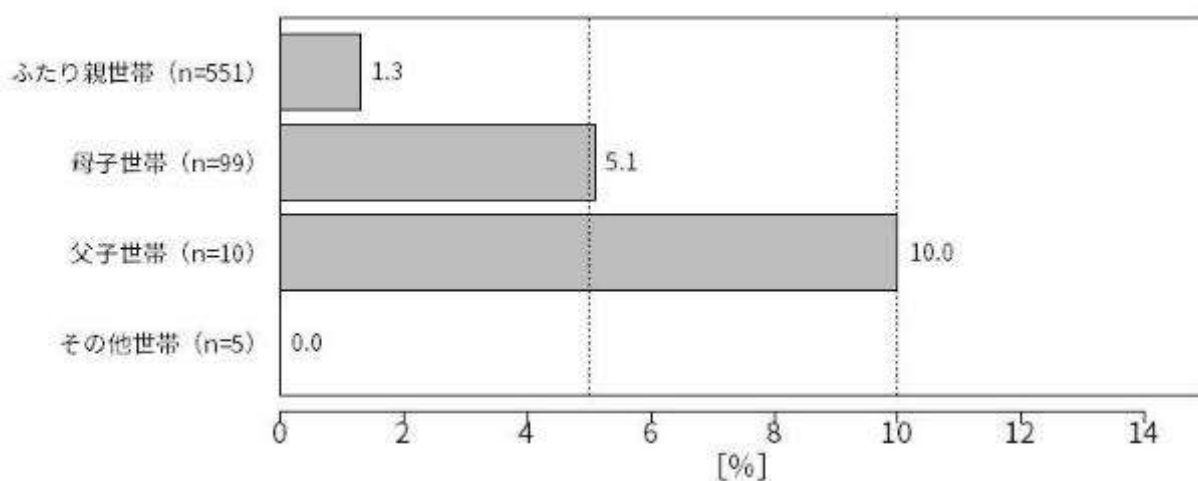


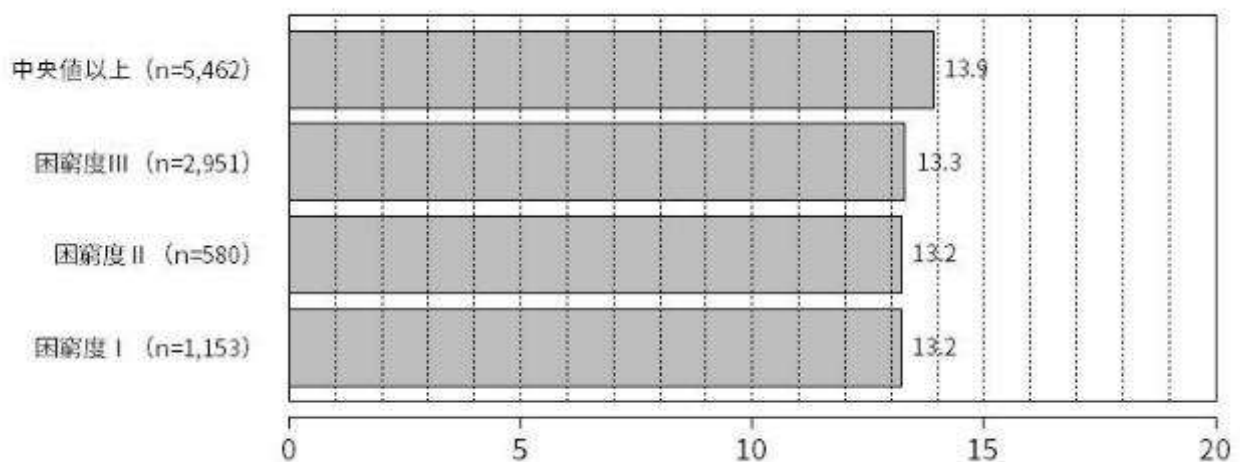
図 174. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

母子世帯では、ふたり親世帯と比べて「相談できる相手がいない」と回答した割合が高くなる傾向にあった。「相談できる相手がいない」と回答した割合は、母子世帯では5.1%だった。

困窮度別に見た、セルフ・エフィカシーの合計得点平均（問 40）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の5項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの4段階で評価させ、5項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市住之江区>

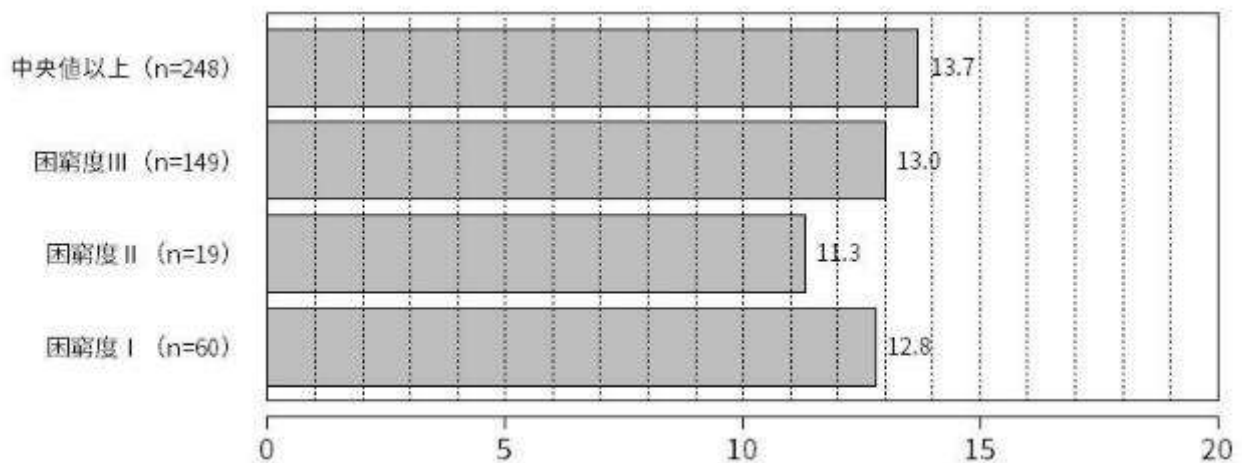


図 175. 困窮度別に見た、セルフ・エフィカシーの合計得点平均

困窮度Ⅰ群ではセルフ・エフィカシー得点は12.8点であった。